

徳島県の中高年を 対象とした 消費者教育のための 探索的研究報告書

平成30年度とくしま政策研究センター委託調査研究

平成31年3月

鳴門教育大学

目次

I 概要	1
調査研究の要約	1
調査研究の背景と目的	1
調査研究の実施内容	2
調査研究推進体制	4
II 講座の実施	5
募集案内チラシ	5
概要	7
参加者アンケート	8
自宅におけるものの整理・収納のルールや悩み（自由記述）	10
III アンケート調査	15
住まいのものと空間管理に関する項目	17
金銭管理と消費生活に関する項目	20
交流関係とライフイベントに関する項目	24
属性等に関する項目	29
IV ケーススタディ	35
V 中高年向けの消費者教育プログラムの開発に向けて	41
参考資料	45

I 概要

本研究は、とくしま政策研究センターの平成30年度委託調査研究として、消費者教育の推進に寄与するために行ったものである。公募による審査を経て鳴門教育大学（代表：黒川衣代）の申請が採択され、徳島県より委託を受けて実証的調査研究を実施した。

調査研究の要約

中高年は消費者教育を受けていない世代である。消費者教育を受ける機会がなかった中高年を対象に、整理収納についての講座を開講すると同時に受講者に生活環境や住居・消費行動等に関するアンケート調査を実施する。中高年の消費生活課題を探り、中高年のための消費者教育の方向性や重点箇所を明確化させることを目的とする。また、アンケート調査を基に中高年向けの消費者教育プログラムを検討する。

調査研究の背景と目的

戦後の社会や価値観の変化に伴う家族や住まい方の変化、近隣住人との関係の希薄化に加えて、加齢による身体的機能の低下や環境の変化等により生活に不安を抱えている中高年は少なくないと考えられる。オレオレ詐欺やゴミ屋敷等、中高年は消費生活において社会的弱者の様相を呈している。しかし、中高年は消費者教育を受けていない世代である。若者と違って、ライフステージ上、人生の後半・晩年を迎える中高年には、その年代にふさわしい消費者教育が必要である。中高年向けの消費者教育プログラムの開発は喫緊の課題である。

本研究の目的は、中高年者の生活や消費行動実態を把握するとともに、どのような属性や生活環境の人がどのような消費生活上の課題や問題を抱えているのかを明らかにし、中高年のための消費者教育の方向性を明らかにすることである。

本研究の期待される効果として、調査の結果が未開発の分野である中高年の消費者教育プログラムの開発につながる事が挙げられる。さらに予測される効果として、消費者教育プログラムの充実は、中高年に購買消費行動の見直しを促し、消費者被害の軽減・防止に役立つことが期待できる。

調査研究の実施内容

目的

中高年を対象とした消費者教育のための課題を探り方向性を明確にする

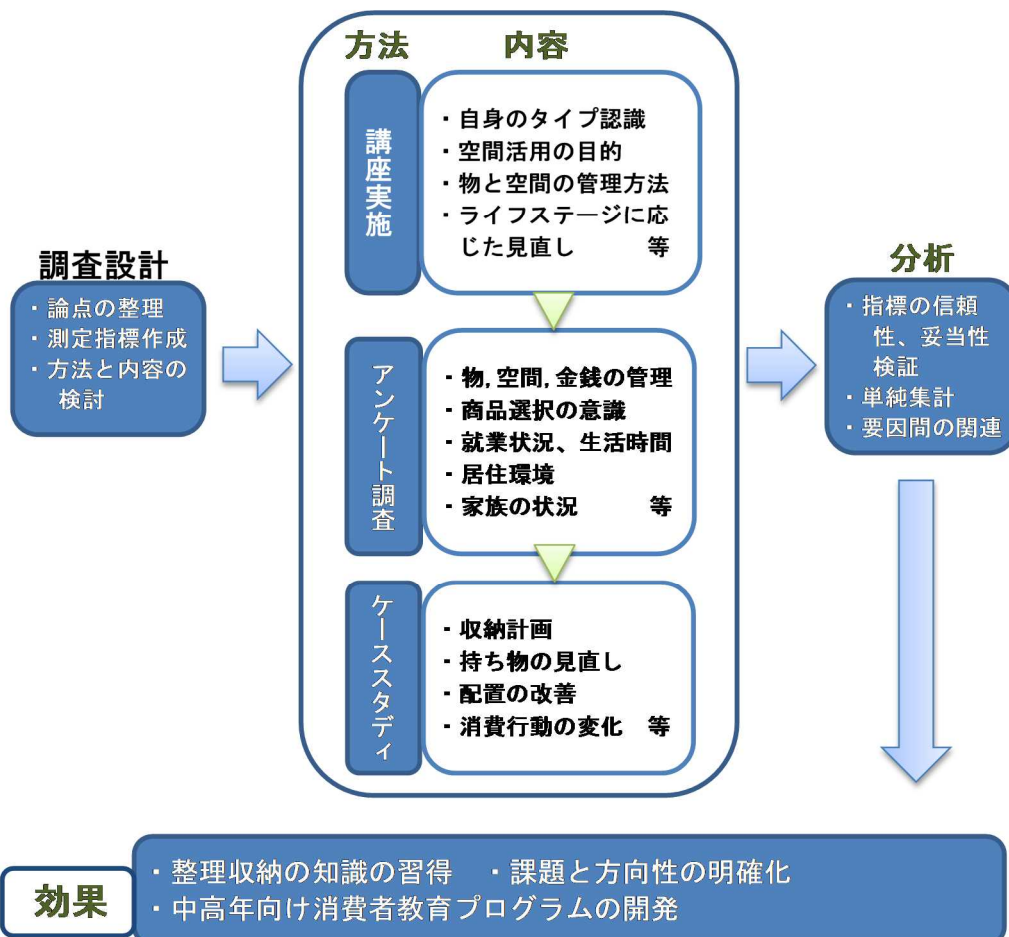


図 1 調査研究概念図

調査研究の概要

学校で行われている消費者教育から取り残された世代である中高年に焦点を当て、手法の特徴は、整理収納の専門家である外部講師による講座とケーススタディ、研究者によるアンケート調査を組み合わせた。調査研究の枠組は、図 1 の概念図に示すとおりである。

本研究では、講座実施、アンケート調査、ケーススタディの3つの方法を実施することにより中高年を対象とした消費者教育のための課題を探り方向性を明確にする。3つの方法を通じて1) 整理収納の知識の習得 2) 課題と方向性の明確化 3) 中高年向け消費者教育プログラムの開発の効果につなげる。

実施スケジュール

表 1 調査研究実施スケジュール

H30年6月～7月	外部講座講師との講座内容検討
7月～8月	アンケート内容の検討と確定、印刷
8月	広報(徳島県立総合高等学校、徳島県消費大学校、徳島県シルバー大学校、中高年ボランティア団体等)
9月～10月	講座実施(定員100名程度)
11月～12月	アンケート集計
H31年1月～3月	消費者教育プログラムの開発

講座実施：対象者と同じ中高年齢層で整理収納アドバイザーの資格を持つ外部講師に依頼し、整理収納について分かりやすく説明してもらう。

アンケート調査：講座で判明する個人の整理収納タイプと生活環境・住まい・消費行動等の関連を分析、課題を探り消費者教育プログラムを考える基礎資料とする。

ケーススタディ：調査時に希望者を募り、ケーススタディとして外部講師の指導により実際に自宅の収納改善を体験してもらう。対象者には事後にインタビューを実施する。

調査研究推進体制

調査研究推進体制

調査研究推進体制は図 2 のとおりである。鳴門教育大学の研究者 3 人が消費生活・消費行動、住居、家族関係それぞれの視点から調査設計、データ分析を実施する。講座の広報や会場準備等は鳴門教育大学において消費者教育に関わっている学生に依頼する。講座講師およびケーススタディにおける整理収納指導は外部専門家に依頼し、研究目的に合致した講演・指導内容となるよう、鳴門教育大学の研究者と調整しながら推進する。

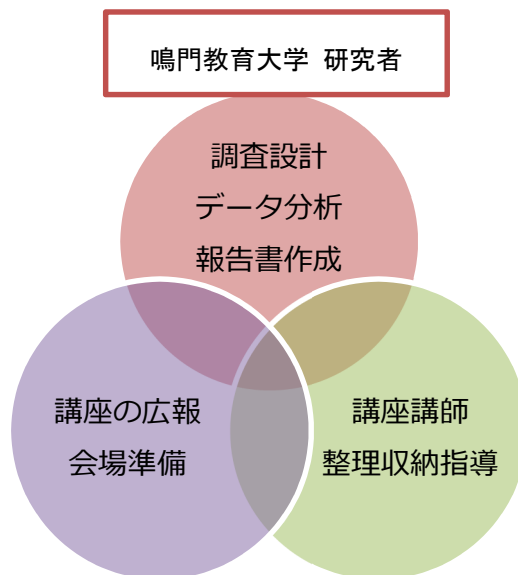


図 2 調査研究推進体制

メンバー

研究代表者 国立大学法人 鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(家庭)黒川衣代

国立大学法人 鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(家庭)金 貞均

国立大学法人 鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(家庭)坂本有芳

Ⅱ 講座の実施

募集案内チラシ

50代からの お片づけ

参加
無料
(要申込)

～快適なシニアライフを目指して～

平成30年
1回目 9/25(火)
14:00～16:00
イオンモール徳島
4F イオンホール
徳島県徳島市南末広町4番1号

平成30年
2回目 10/3(水)
14:00～16:00
アスティとくしま
徳島県立産業観光交流センター
1階 第3会議室
徳島県徳島市山城町東浜橋1

1回目、2回目とも
同じ内容です。
ご都合のよい日
にお越しください。

講師：整理収納アドバイザー 内藤恵子先生
対象：おおむね50歳以上の方(男女を問わず)
定員：各100名(先着順)
申込先：鳴門教育大学社会連携課 地域連携係
★申込方法は裏面をご覧ください。

プログラム ※1回目、2回目とも同じ内容です。

整理収納アドバイザー 内藤恵子先生のお話

1. あなたのお片づけタイプをチェック
2. 今、片づけを考える意味
3. 整理収納のテクニック
4. お片づけビフォー・アフター事例

お話の終了後、簡単な無記名のアンケートにお答えいただけます。
(筆記用具は主催者が用意します)

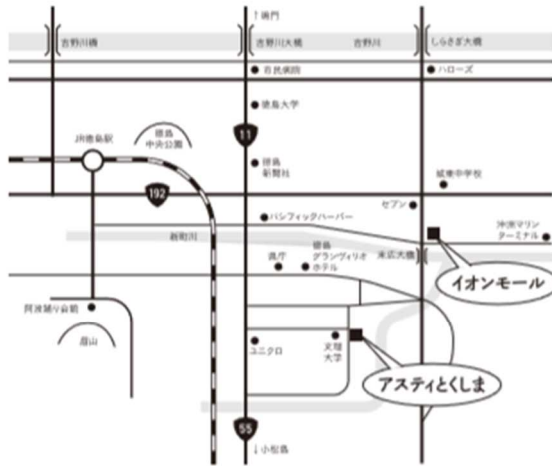
講師：内藤恵子先生のプロフィール
整理収納アドバイザー、終活カウンセラー
1956年兵庫県姫路市生まれ、神戸大学卒、徳島
在住30年。約10年前、友人の影響で「お片づけ」
に興味を持つ。自宅や友人宅での実践を通して
「お片づけの大切さとその絶大な効果」を実感。その
素晴らしさを多くの人に伝えたいと2013年、57歳
でアドバイザー資格を取得。以来「お片づけでたくさ
んの笑顔を」をモットーにセミナー開催、お片づけサ
ポート、個別アドバイスなどの活動を続けている。



 鳴門教育大学

●主催：鳴門教育大学 この講座は、平成30年度とくしま政策研究センター委託調査研究の一部です。

50代からのお片づけ 会場ご案内MAP



1回目

平成30年9月25日(火)
14:00~16:00

イオンモール徳島
4F イオンホール
徳島県徳島市南東広町4番1号

2回目

平成30年10月3日(水)
14:00~16:00

アスティとくしま
徳島県立産業観光交流センター
1階 第3会議室
徳島県徳島市山城町東浜傍1

申込方法 電話・FAX・メールのいずれかでお申し込みください。

•お申し込み・問い合わせ先
鳴門教育大学社会連携課
地域連携係

※当日の急な欠席連絡なども、
右記の電話番号までお願いいたします。

TEL 088-687-6239

FAX 088-687-6100

MAIL chiiki@naruto-u.ac.jp

下記の項目に記入してFAXを送信してください。

電話・メールにてお申し込みの方は下記情報をお伝えください。

代表者氏名		参加者数	人
代表者連絡先 ※昼間に連絡が可能な電話番号		参加日	<input type="checkbox"/> 1回目 9月25日(火) <input type="checkbox"/> 2回目 10月3日(水)

※ご提供いただいた個人情報は、当該関係の事務以外に使用することはありません。

※1回目、2回目とも同じ内容です。

概要

表 2 講座概要

タイトル	50代からのお片づけ ～快適なシニアライフを目指して～	
講師	整理収納アドバイザー・終活カウンセラー 内藤 恵子	
日時	1回目	2回目
	平成30年9月25日(火) 14:00～16:00	平成30年10月3日(水) 14:00～16:00
会場	イオンモール徳島 4階イオンホール	アスティとくしま 徳島県立産業観光交流センター1階 第3会議室
参加人数	123名	90名
タイム テーブル	<p>14:00 開式挨拶</p> <p>事前アンケート（片付けタイプ分類）記入</p> <p>講座講師紹介</p> <p>14:10 内藤恵子先生のお話</p> <p>14:50 休憩</p> <p>15:00 片付けビフォー・アフター事例</p> <p>15:20 質疑応答</p> <p>15:30 モニター募集についての説明</p> <p>調査アンケート配布</p> <p>16:00 講座終了</p>	

参加者アンケート

表 3 実施した調査の概要

調査対象者	実施した講座「50代からのお片づけ～快適なシニアライフを目指して～」の参加者
配布・回収法	集合法 講座の参加者全員に対し、着席した状態で講座の終了前にアンケート調査票を配布し、退出時に出口付近の回収場所にて提出してもらった。
配布数	213 票
有効回収数（率）	210 票（98.6%）

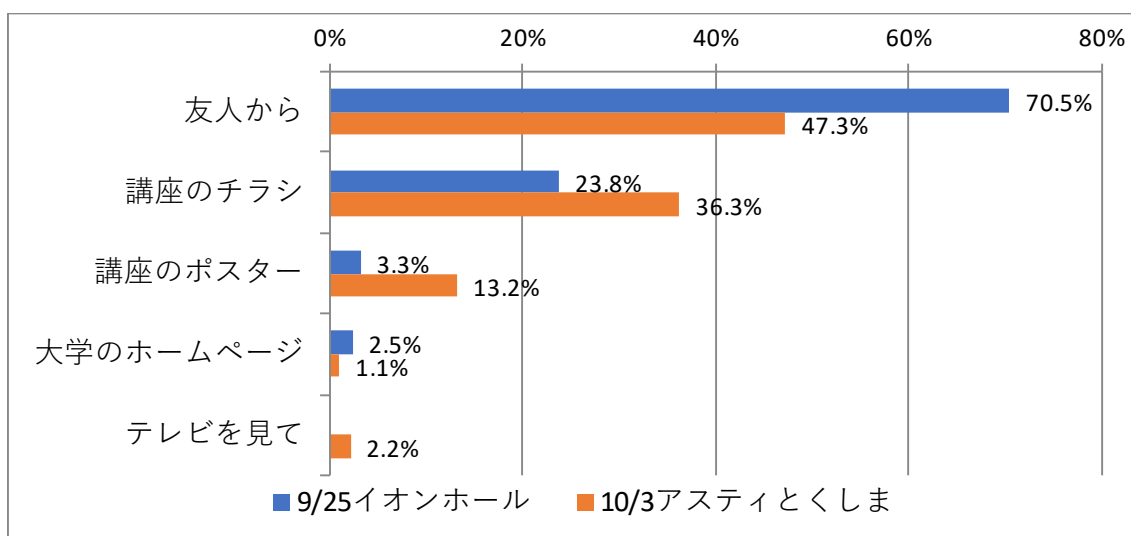


図 3 この講座を知ったきっかけ

本講座をどのように知ったかをたずねた（図 3）。9/25 にイオンホールで実施した回では、「友人から」が 70.5% と最も多く、次いで「講座のチラシ」の 23.8% であった。10/3 にアスティとくしまで実施した回は、「友人から」が 47.3% と最も多く、続いて「講座のチラシ」が 36.3% であり、「講座のポスター」も 13.2% みられた。9/25 の様子がテレビで放映されたのを見て参加した人もいた（2.2%）。（図 3）

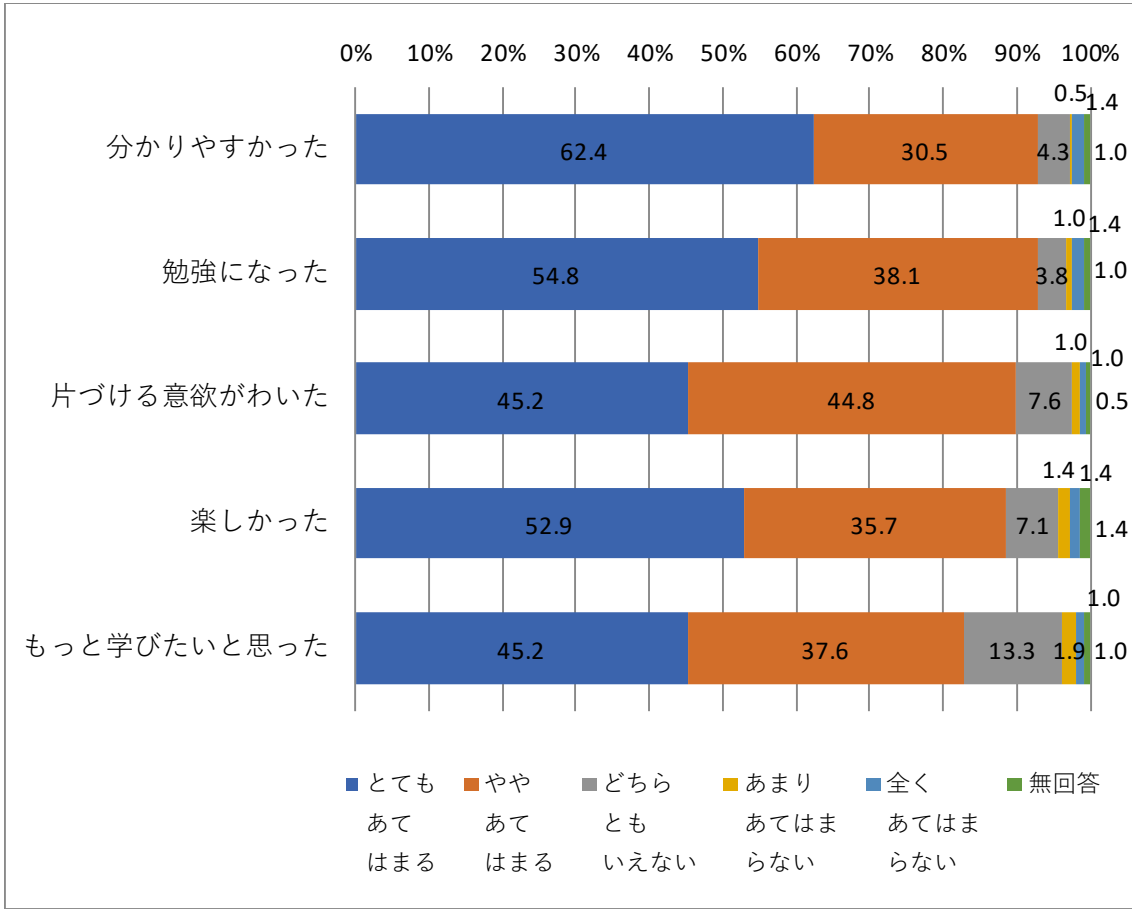


図 4 講座内容に対する感想(2 回分合計)

講座内容に対する感想をたずねた(図 4)。「分かりやすかった」は「とてもあてはまる」が 62.4%、「ややあてはまる」が 30.5%であった。「勉強になった」は「とてもあてはまる」が 54.8%、「ややあてはまる」が 38.1%であった。(図 4)

自宅におけるものの整理・収納のルールや悩み(自由記述)

ルール(工夫)

- 物を出したら使用後は元の場所(定位置)へもどす。(6件)
- 物の置き場所を決める。(2件)
- 同じ物を集めて収納
- 取りやすいところに収納する。
- 脱衣かごを置いていれてもらうようにする
- 一つ物を買ったら前の物は捨てる。(2件)
- 家族にわかりやすく収納する。ラベルをつける。使用する場所の近くに収納する。
- 今の体型に合わないものは捨てる。
- 1年着なかった衣類は捨てる。
- 2~3年着ない物、使わない物は思いきって処分する。
- 着なくなった服はリサイクル場へ→太陽と緑の会リサイクルへ
- 自宅にある物で使わなくなった物は、捨てる前に別の使い方ができないか考えてみる。あきらめの時期がきた物は捨てる。
- 物を増やさないため、迷ったら買わない!

ルール(行動)

- 週一回は掃除機をかける。
- 机の上は、片づけるようにしている。
- 机の上に物を置きっぱなしにしない。
- 自分の事、自分の物は、本人がする。
- まずは自分のモノから片付けること
- 自分の部屋は自分で、口も出さない、手も出さない。共有の場所は、義母 92歳のルールに従う。(食卓の上は、母の物でいっぱいだが文句は言わない。)
- 使える物はすぐ使う。
- ”もったいない”という気もするが、不要な物は捨てる。
- お客様、人が来る事によって片付、整理が出来て美しくなる。いらぬものはすぐに捨てる。ものをあまり買わない事にしている。退職してからは。
- 不自由を感じたら片づける。一年に何回か一気に片づける。

ルール(ネガティブ)

- 不要な物は、納戸、クローゼット押入れにとりあえず入れておくがそのままになってしまう。
- となり近所も親せき、友だちルールになって、片づけ方へは？自分が納得することなのに、勝手に片づけされると親みたいにされる事も有りとなり悩みになってしまうと思います。
- できるだけ食卓の上に物を置かないように心掛けていますが、なかなかできません。
- もとにもどす→できてないことが多い
- 物が捨てられない

ルール(なし)

- ルールは特になし、決まっていない。(4件)

お悩み(自分自身の問題)

- 古い物や思い出のものが捨てられない。(6件)
- モノを捨てるのが(買うよりも)難しい。
- 捨てることができない。次に使うことがあると思い、とって置いてしまう。
- 捨てるように気をつけたい
- 今後必要な物、必要でない物を見分けがしづらい。
- 捨てられない物が沢山あり、どのように片づけてよいか分からない。
- すてられない物の要不要が決められません。とりあえずBOXの活用は同種類でしょうか？
- そのうち使うかな？と思うものを捨てることができない。見えるところは片づけることができるが、見えないところが片づいていない。子供部屋(現在は県外にいるので使っていない)が物置きになっている。
- 書類の捨て方に悩んでいます。
- 雑誌が多くて、古い物から捨てるようにするつもり。
- 書類、郵便物等の紙類が、整理する前に見てから捨てようと思い、置いているとたくさんたまり困っている。
- 使わない、もう多分着ないと思っていても、客フトンや着物は処分しづらいです。
- 客用ふとんやぎぶとんなど、不要なのだけど…なかなか捨てられない。
- 使用したことがない布団(結婚時に持参)→処分すべきとは思いますが。

- 古いハギレなどを活用するのが好きで洋服を捨てられない。まだ使えるものを捨てることに罪悪感がある。
- 和服を着る機会もない。和タンス自体、もう必要ないかなと思う。
- 購入時に少し（値段が）高価であった絵画やインテリア用品、ブランドものの食器、小物、家具、楽器（ピアノ、バイオリン）などをより良く手放す（せる）傾向と対策を御教授いただけると幸いです。
- ゴミの分別
- 分別ゴミにしなければならない。その地点でつまづく。
- 捨てるのが大変。（分別等）
- 捨てなければならないものが多すぎて疲れ果ててしまった。廃業したときの物品がまだ山ほど残っている。
- 物が多すぎること。（3件）
- 物が増えて困る
- 食器が多い（安い食器と高い食器がまざっている→安い食器を捨てようと思うが捨てても義母が買ってくる）
- 本が多い（本に囲まれているだけで幸せな私）捨てたくない。
- 自分の趣味の物がありすぎて、かたづいていない。
- 趣味、関心を持つことが多く、情報物でいっぱいになってしまう。
- 小物整理が上手に片づけられない。タンスの中の整理のしかたがわからない。
- 古い写真の整理をどうすればいいか悩んでいます。
- 納戸の壁側のラックにあふれる写真
- 写真が片づけられないが、最後で良いと知って気が楽になりました。
- 写真の整理ができない。デジタル化して、写真を処分しようと思いましたが、できないのが現状。
- 嫁入り道具の大きなものは、体力、人手がいるので手がつけにくい。
- しまった物の場所がわからなくなる（忘れる）
- さがし物をした時、整理整頓をしたものがぐちゃぐちゃになってしまう。
- きれいに整理しても、とっているうちにゴチャゴチャになってしまう。
- 元の位置に返せない。
- すぐにちらかる！
- 片づける時間がとれない。片づけてもすぐちらばる。どこに片づけてよいかわからない。

- 本やカバン等が床にちらばっている。片づけをしなければならぬ→でもできない→落ち込む。なかなか手がつけられず、困っている。
- 置いたら置きっぱなし…など、服の山ができたり…私一人が片づけにおわれているように思う。
- 物をもらったりして物が増えると、決めている場所におさまらないので困る。
- 今のところは、気づいたら（散らかっている所）そこを中心にして整理収納を考えて片づけていっている状態。
- 食器の収納に困っている。
- 仕事の書類の整理、本棚
- 紙類の整理がうまく出来ません。片付け過ぎると、期限などを忘れてしまいそうで不安です。
- 事務書類の整理が上手にできない（引き出しに整理することにはしていますが…。）後で答を頂きました。ありがとうございました。
- だいたい決まった引き出しに入っているが、その引き出しの中とかが、乱雑である。
- 今みたいな季節のクローゼットが混乱します。
- ウォークインクローゼットの中がゴチャゴチャしすぎて片付け方が分からなかったが、グルーピングしてみます。
- 期限の切れた防災時用の水や食料・クローゼットの中が一年経つとあふれる
- 片づけがあまり好きでなく、キレイになっているのはうれしいのですが、それまでになかなかたどりつかない。
- 整理しようと思ってもなかなか腰が上がらない。
- 義母のルールがころころ変わる。
- 大きな片付物の場合、きっかけがあれば良い。（例）時期
- アルコールで酔った時に片づけをするが、朝、酔いが覚めると、とんでもない状態になっている。前よりひどくなっていることがある。
- 体力がなくなって、片づけがおっくうになっている。しかし、講座を聞いて、小さいことから少しずつ始めたい。
- 整理収納は難しくて多大な時間が必要だと思う。片付けに終了はないとの事ですが、現状のままでいいのではと思ってしまう。片付けの絶大な効果を得る為に、まだ勉強会で話を聞きたいと思う。

- 書類の片付け、大変勉強になりました。定期的にするというのは、やはり必要ですね。趣味のソーイング小物がごちゃごちゃになりがちでしたが、色分け、種類分けをしたことで、探しやすい、便利になり、ますます楽しくなりました。
- 退職後、一度片づけをしたのですが、途中になっていました。今日のお話をお聞きできて、再スタートのスイッチが入ったようです。「ユルユル」だけど、確実にしていきたいです。
- 「もったいない」…その品を活かしていないということを今日の講座の持ち帰りとします。ありがとうございました。

お悩み(自分以外の問題)

- 家族がものを捨てずに、いつまでも置いてある。
- 家族の物がいっぱい片づけたくても片づけたらおこるので片づけられずそのまま
- 主人、子供がどこにでも服をぬぎすてる。
- 子供、孫が二階で過ごしているので、脱いだ服など居間に置くので片付かない。
- 子供が使ったものを元に戻さない。私のしつけができていないと思われる。だからものがすぐなくなる。服をたたむが、引き出しの中がぐちゃぐちゃ。
- 主人の物が片づけられない。
- 主人が、本を捨てない、どうすれば良い？
- 夫の書類（ダンボールに入ったまま）が何箱もある。夫をうながす方法は？
- 夫婦二人のモノを捨てるか捨てないかに関する基準が違う。
- 書類の整理ができない。家族が協力的でない。
- 片づけると言っても言い訳をして片づけない。
- 結婚した娘や息子のものが、一部を残して片づかない。食器を減らします。
- 2人の子供が（成人）おり、彼らの荷物がリビングに置きっぱなしになっている。
- 100歳の親の物が捨てられない。姉妹の着物 etc.を預かっており、困っている。
- 母が住んでいた所に戻って一緒に住んでいます。母が入院して、家に帰ることがない状況なので、母の荷物の片づけ（お茶、お花の道具）があり、押し入れを占めています。どうすればいいかと思っています。
- 祖父母やその前からの写真が山ほど出てきて、どうしようかと思う。法事の時に必要な親せきにあげようか…と思う。家の歴史ということで整理をすればよいが、古すぎて年代も誰かも分からない。この仕事は女の人の仕事か一男の人の意識を変えてほしい。（家事全体に）

Ⅲ アンケート調査

あなたのお片づけタイプは？

●自分が「当てはまる」と思う項目に☑をつけてみましょう。

A	☑がついた数 <input type="checkbox"/> コ	B	☑がついた数 <input type="checkbox"/> コ
<ul style="list-style-type: none"> ・モデルルームのような部屋が好きで掃除にかかる時間は短い。 <input type="checkbox"/> ・クローゼットや押し入れには常にゆとりがある。 <input type="checkbox"/> ・友人や知人に部屋がキレイとよく褒められる。 <input type="checkbox"/> ・探し物はあまりなく家族にモノの場所を言える。 <input type="checkbox"/> ・何か買う時はよく吟味する。 <input type="checkbox"/> 		<ul style="list-style-type: none"> ・モノ持ちの割に家の中は片付いていると思う。 <input type="checkbox"/> ・洋服の数は多いが着たい服をすぐに取り出せる。 <input type="checkbox"/> ・整理や片付けは楽しみながらできる。 <input type="checkbox"/> ・収納グッズや収納テクニックにはかなり詳しい。 <input type="checkbox"/> ・あまり使わない食器も食器棚に納めている。 <input type="checkbox"/> 	
C	☑がついた数 <input type="checkbox"/> コ	D	☑がついた数 <input type="checkbox"/> コ
<ul style="list-style-type: none"> ・食卓の上にたくさんのモノが出ている。 <input type="checkbox"/> ・玄関の靴箱スペースだけでは靴が入りきらない。 <input type="checkbox"/> ・押し入れや納戸の中からモノを取り出すのは大変。 <input type="checkbox"/> ・ソファや椅子の上に服やバッグが置かれている。 <input type="checkbox"/> ・ストレス解消はショッピングで特売品を見るとつい買ってしまふ。 <input type="checkbox"/> 		<ul style="list-style-type: none"> ・1年以上前の通販カタログや雑誌がある。 <input type="checkbox"/> ・サイズの合わない服でも捨てられない。 <input type="checkbox"/> ・床にモノが散乱して掃除機をかけることが面倒。 <input type="checkbox"/> ・家電を買い替えても古いモノはとってある。 <input type="checkbox"/> ・捨てるつもりで何か月もそのままになっているモノがある。 <input type="checkbox"/> 	

図 5 お片づけタイプ 診断項目

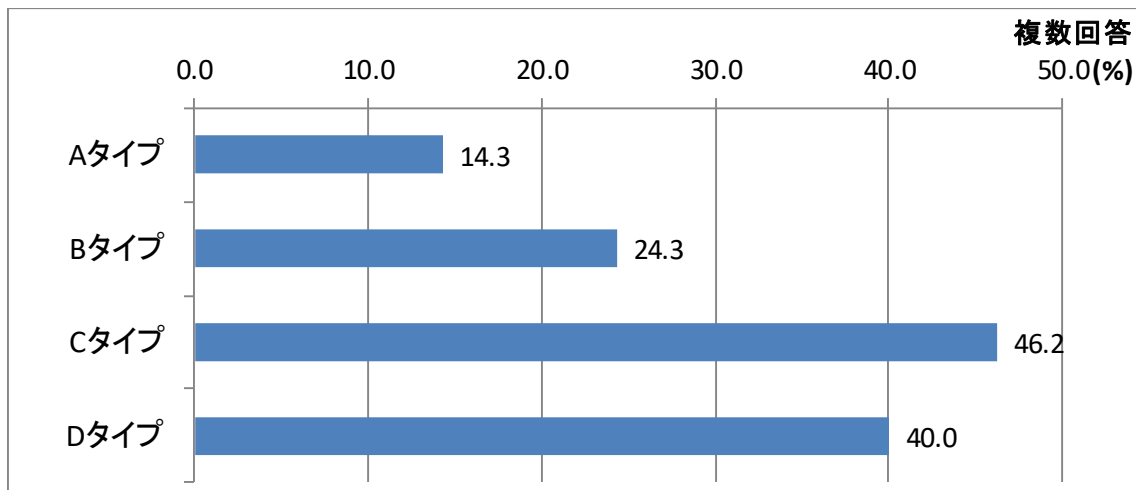


図 6 お片づけタイプ(複数回答)

お片づけタイプについてたずねた。「Aタイプ」が14.3%、「Bタイプ」が24.3%、「Cタイプ」が46.2%、「Dタイプ」が40.0%であった(図6)。

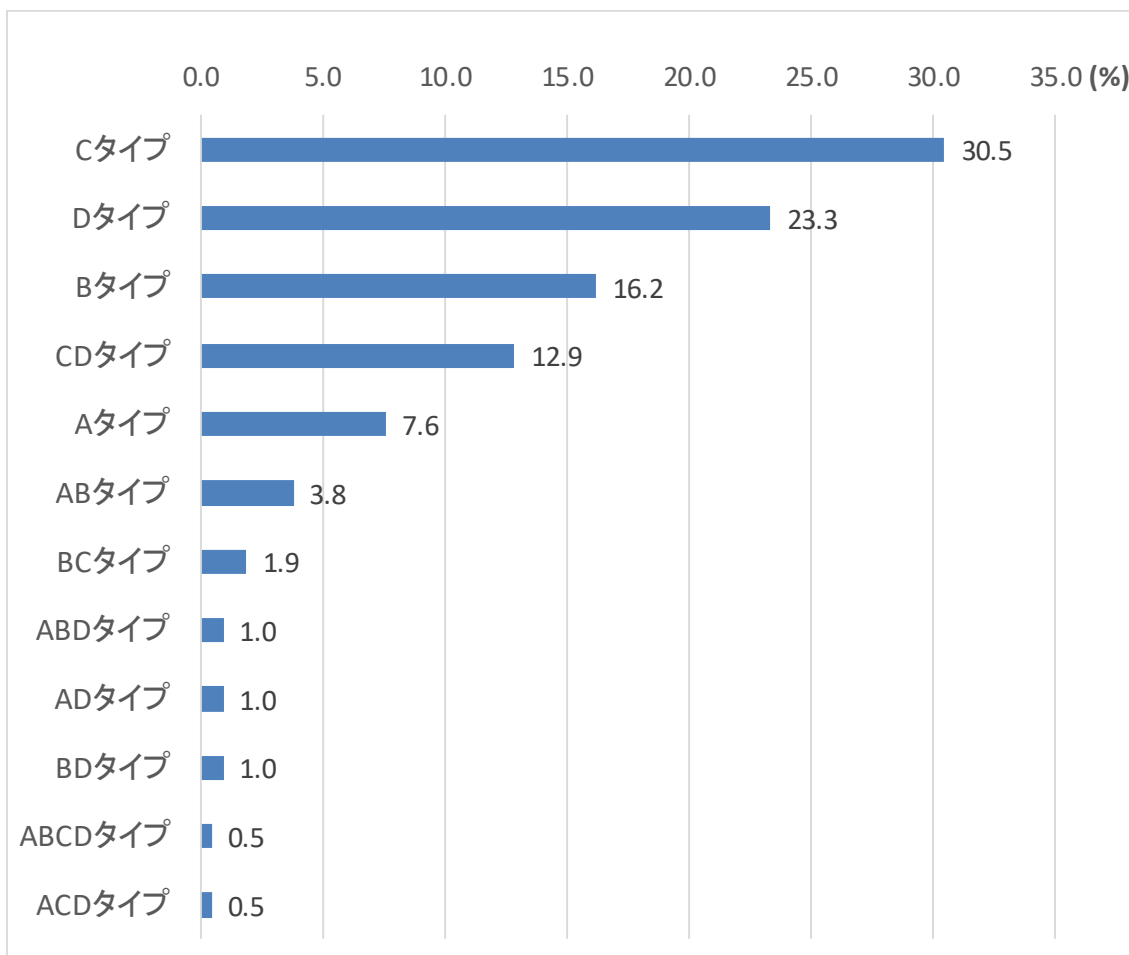


図7 お片づけタイプ(組み合わせたもの)

複数のお片づけタイプに同数のチェックがあったものを組み合わせた結果は図7のとおりである。「Cタイプ」が30.5%、「Dタイプ」が23.3%、「Bタイプ」が16.2%、「CDタイプ」が12.9%であった。(図7)

住まいのものと空間管理に関する項目

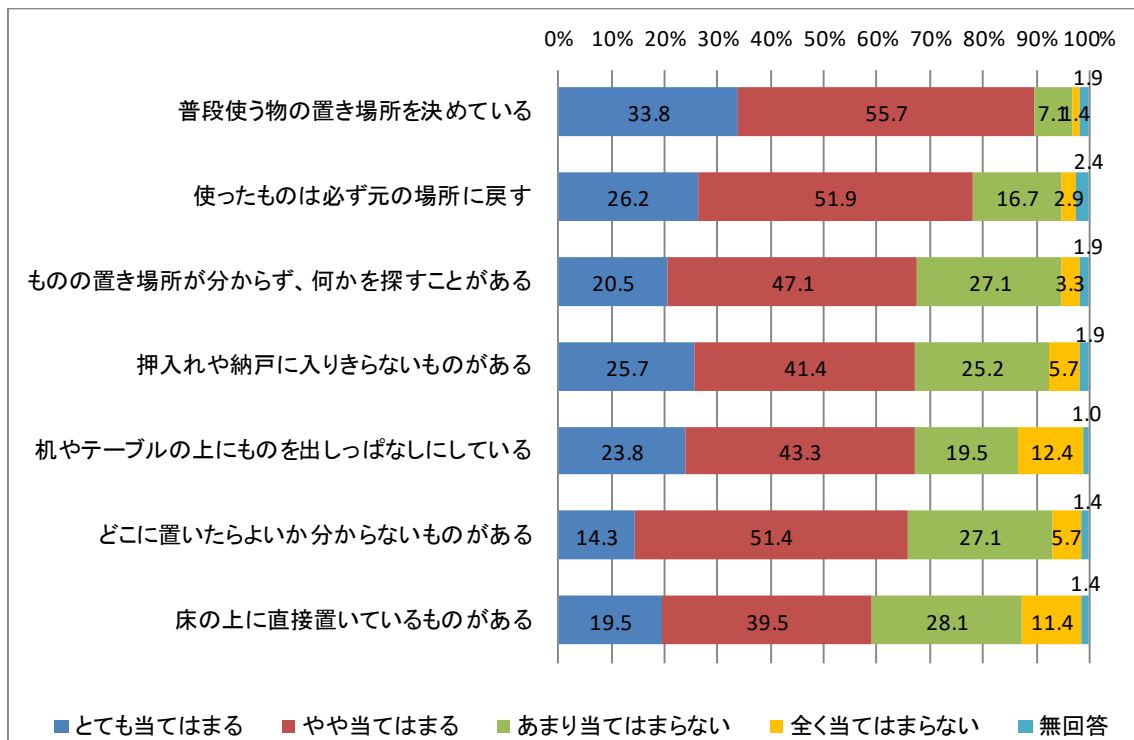


図 8 ものの整理・収納

ものの整理・収納についてたずねた。「普段使う物の置き場所を決めている」「使ったものは必ず元の場所に戻す」の「とても当てはまる」はそれぞれ 33.8%、26.2%で、「ものの置き場所が分からず、何か探すことがある」人は「やや当てはまる」を含めて 67.6%であった（図 8）。

きちんと日常使うものの置き場所を決め、使ったら元に戻す習慣が身につけていない場合、普段の生活でもものを探す行為の多いことがうかがえる。「押入れや納戸」の容量オーバーの人が 67.1%いて、持ちものの多さが見受けられる。「机やテーブルの上にももの出しっぱなし」が「やや当てはまる」を含めて 67.1%、「床の上にもものを置いている」人は同じく 59%おり、整理・収納が行き届いておらず、家具や空間が本来の機能を果たせなかったり、足元の安全が危惧されたりする現状が見られた。

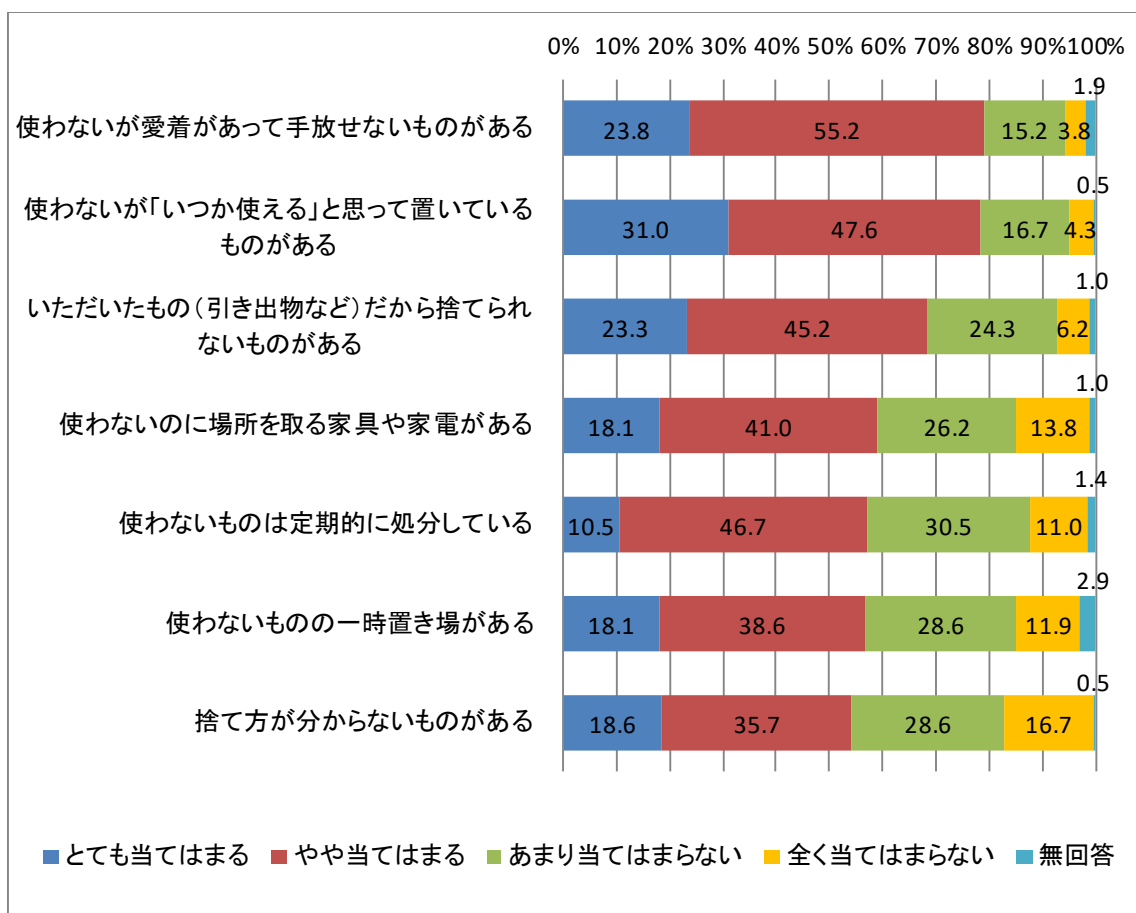


図 9 「使わないもの」の整理・収納

「使わないもの」の整理・収納についてたずねた。「使わないが愛着があって手放せないものがある」は「とても当てはまる」が23.8%、「やや当てはまる」が55.2%であった(図9)。

「使わないが『いつか使える』と置いて置いているものがある」は「やや当てはまる」を含めると78.6%で、「使わないもの」を定期的に処分する(「とても当てはまる」10.5%)ような積極的な行動までは至っていないことが分かる。それは「捨て方が分からない」ことともつながっており、ごみの分別や粗大ごみ(使わない家具や家電)の処分方法など、実質的環境教育が必要と考える。

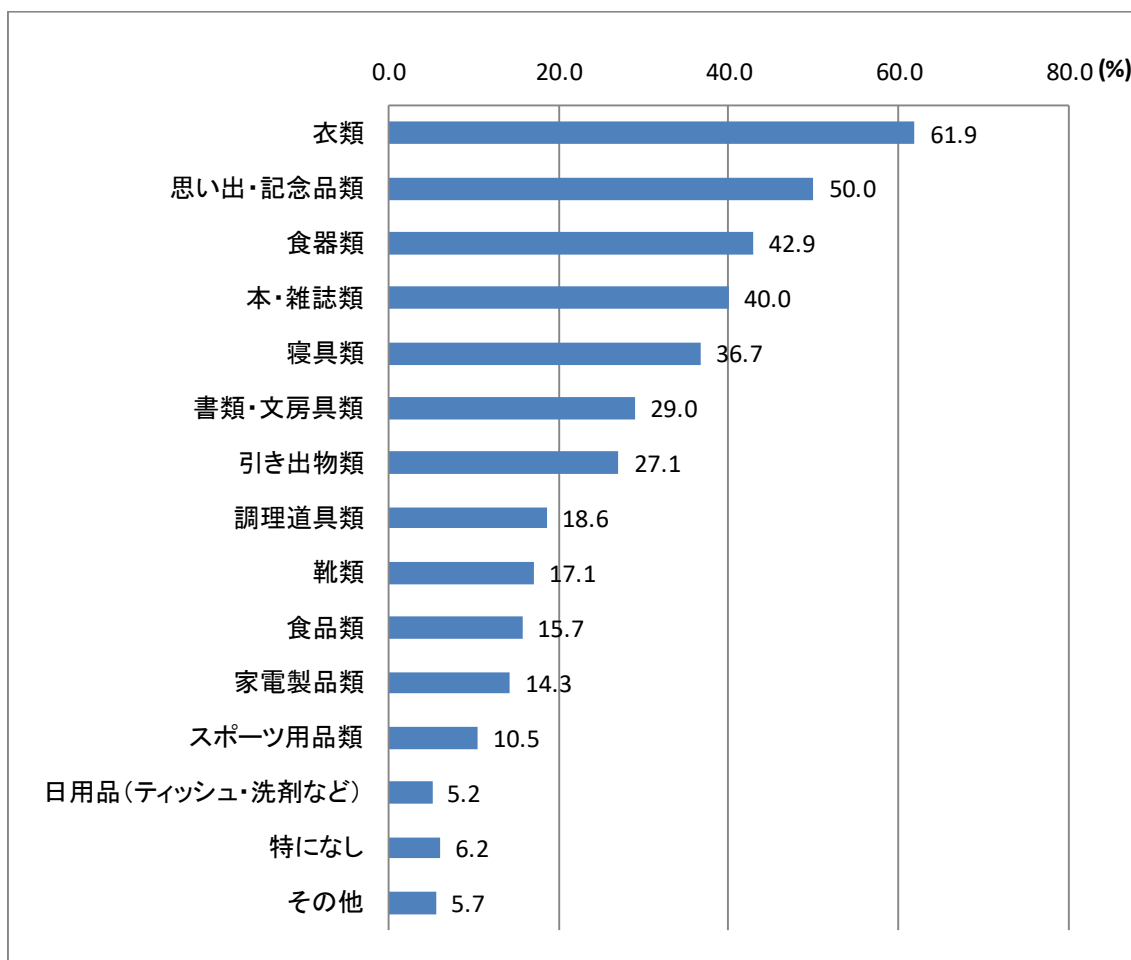


図 10 収納に困っているもの

収納に困っているものについてたずねた。「衣類」が 61.9%と最も多く、次いで「思い出・記念品類」が 50.0%、「食器類」が 42.9%、「本・雑誌類」が 40.0%であった（図 10）。

衣類・靴類など身に着けるものは季節別家族分が必要で、寝具類も季節別家族分に客用までそろえば結構な収納量となる。また台所には、和食・洋食別食器、大きさ・機能別調理道具、買い溜めの食品など種類も数も多いのが実状であろう。なお本・雑誌類のほか、仕分けと収納方法に困る各種書類などの紙類は定期的に見直しをしない限り、増え続けることになる。特に、「思い出・記念品類」は簡単に減らせない分、ずっと一定の場所をとることになる。以上の暮らしを支えるものをいかに管理し、便利に使っていくか、これが快適で安全な住まいづくりの課題といえる。

金銭管理と消費生活に関する項目

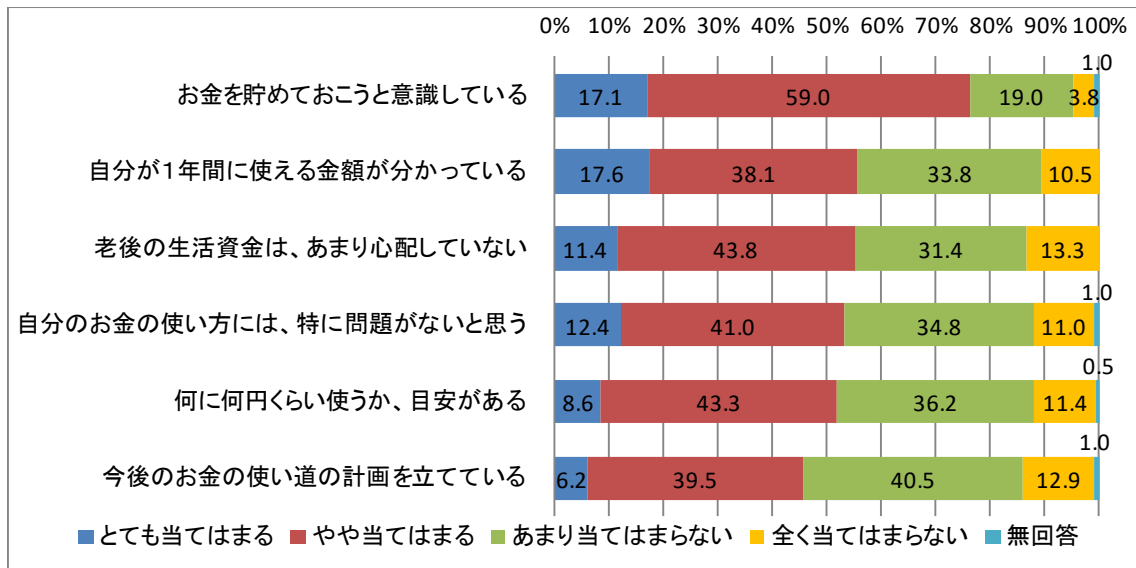


図 11 お金の管理

お金の管理についてたずねた。「お金を貯めておこうと意識している」は「とても当てはまる」が17.1%、「やや当てはまる」が59.0%であり、合計すると3/4以上の人を意識していることが示された。これに対して「自分が1年間に使える金額が分かっている」は「とても当てはまる」が17.6%、「やや当てはまる」が38.1%で合わせて半数強である。「あまり当てはまらない」(33.8%)「全く当てはまらない」(10.5%)の合計も4割を超え、人によって違いが大きいといえる。同様に「老後の生活資金はあまり心配していない」「自分のお金の使い方には、特に問題がないと思う」「何に何円くらい使うか、目安がある」「今後のお金の使い道の計画を立てている」についても「とても当てはまる」「やや当てはまる」の合計と「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の合計がほぼ半々となっている(図11)。

計画的な金銭管理の基本となる「自分が1年間に使える金額が分かっている」「何に何円くらい使うか、目安がある」「今後のお金の使い道の計画を立てている」は、中高年でもあまりできていない人が一定程度の割合で存在している。漠然と貯蓄はしてはいるものの、自らが使える資源がどれだけなのかを認識し、目的を持って有効活用しようという意識を持つという点では課題があることがうかがえる。

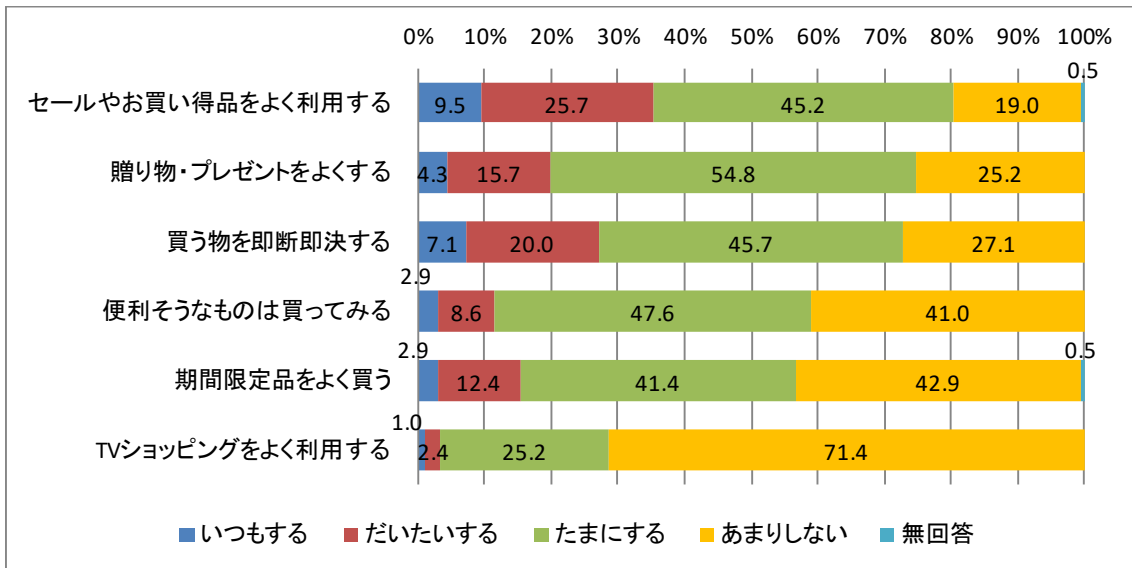


図 12 ふだんの買い物

ふだんの買い物についてたずねた。「セールやお買い得品をよく利用する」は「とても当てはまる」が 9.5%、「やや当てはまる」が 25.7%であり、「たまにする」(45.2%)も合わせると 8 割以上が該当していた。「贈り物・プレゼントをよくする」は「とても当てはまる」が 4.3%、「やや当てはまる」が 15.7%であった。

ものを増やすことにつながりやすい「便利そうなものは買ってみる」「期間限定品をよく買う」は、「いつもする」～「たまにする」の合計が 6 割近くに上った。「TV ショッピングをよく利用する」は「あまりしない」が 71.4%であり、さほど多くの人には利用されていなかった(図 12)。

“セール”，“便利”，“期間限定”，“感謝の気持ち”などは、店側の販売戦略という側面もある。常套手段にのせられて不要な買物をしてしまうという点で、課題があることがうかがえる。

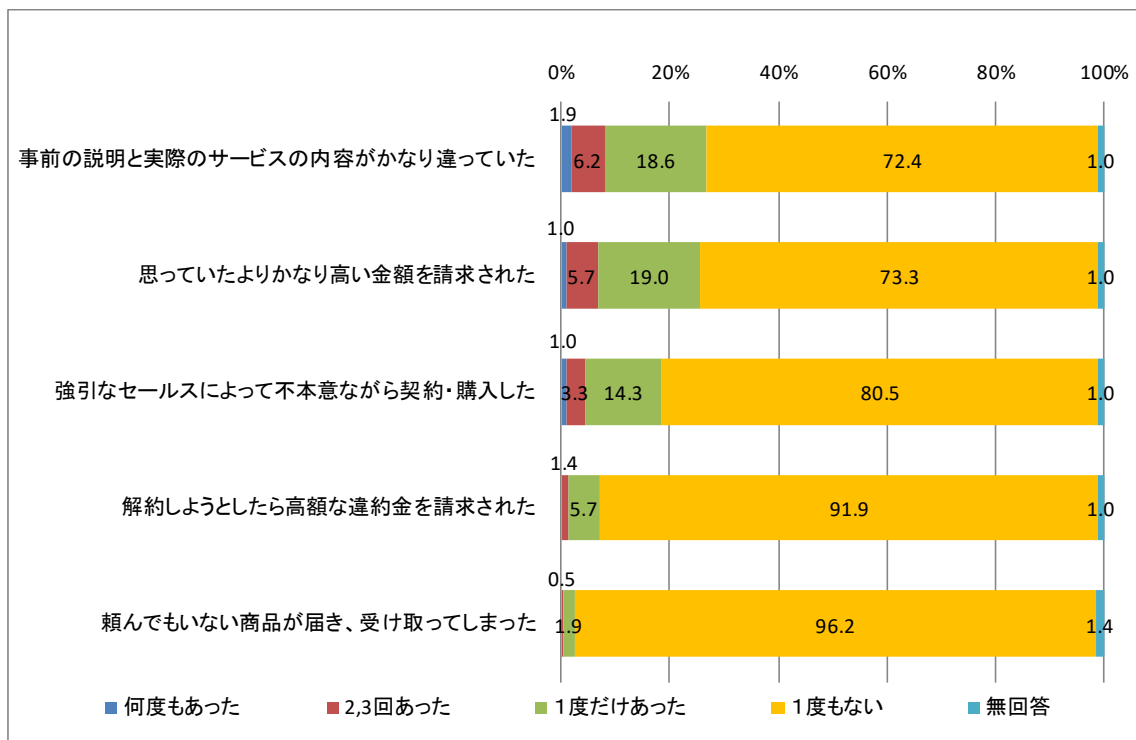


図 13 消費者トラブルの経験

消費者トラブルについてたずねた。「事前の説明と実際のサービスの内容がかなり違っていた」は「何度もあった」が 1.9%、「2,3回あった」が 6.2%であるが「1度だけあった」は 18.6%が該当していた。「思っていたよりかなり高い金額を請求された」も「何度もあった」が 1.0%、「2, 3回あった」が 5.7%と少ないが「1度だけあった」は 19.0%が該当している。いずれのトラブルも、経験が「1度もない」人が 7 割以上にのぼっているが、経験がある人も 2-3 割と決して少なくない（図 13）。

一部の中老年には、商品購入・サービス契約の前に、内容をよく確認するという点で課題があることが浮かび上がった。

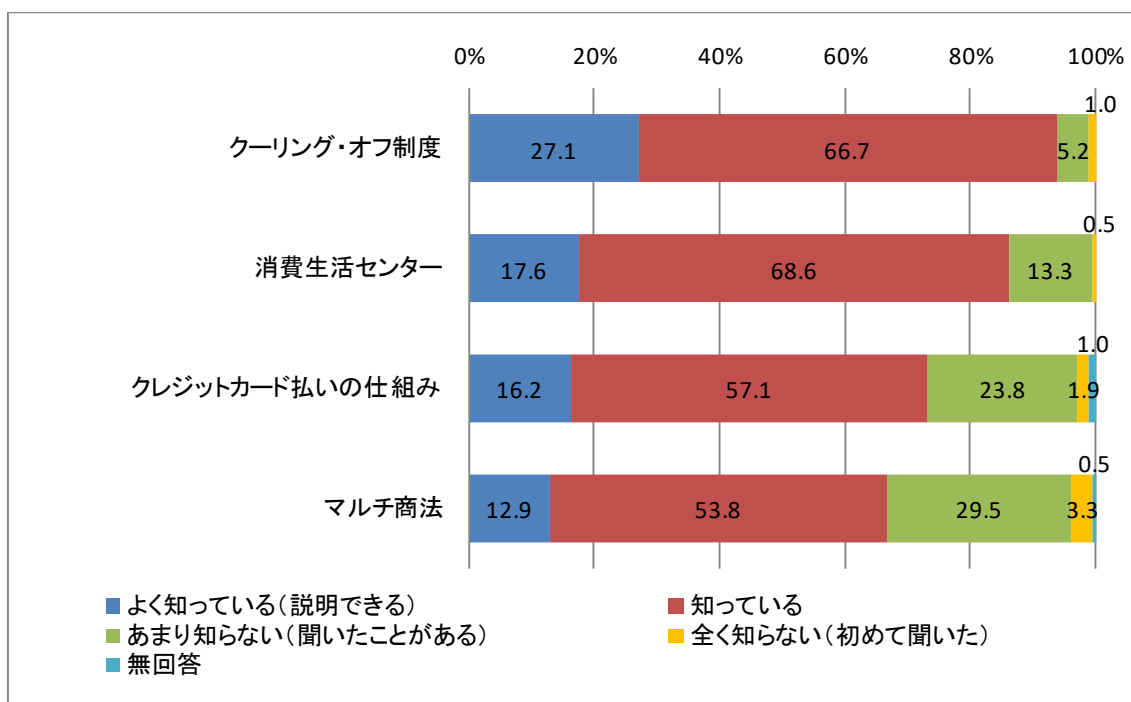


図 14 消費生活に関する知識

消費生活に関する知識についてたずねた。「クーリング・オフ制度」は「よく知っている（説明できる）」が 27.1%、「知っている」が 66.7%であった。「消費生活センター」は「よく知っている（説明できる）」が 17.6%、「知っている」が 68.6%であった。「マルチ商法」は「あまり知らない」「全く知らない」の合計が 3 割を超えていた（図 14）。

学校で消費者教育を受けていない世代にも、「クーリング・オフ」や「消費生活センター」など、消費者被害を救済するための基本的な内容はあり程度認知されている。クレジットカード払いの仕組みを含め、複雑化するキャッシュレス決済の仕組みや、巧妙な悪質商法の知識という点では、課題があるといえる。

交流関係とライフイベントに関する項目

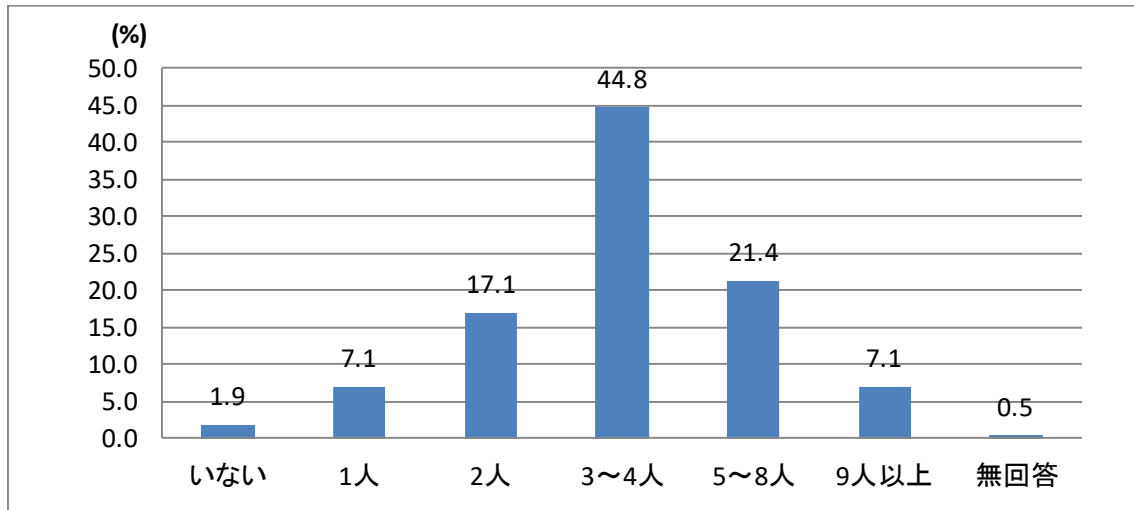


図 15 月に1回は会ったり話をしたりする家族や親戚

月に1回は会ったり話をしたりする家族や親戚についてたずねた。「3~4人」が44.8%と最も多く、次いで「5~8人」が21.4%、「2人」が17.1%であった。(図 15)

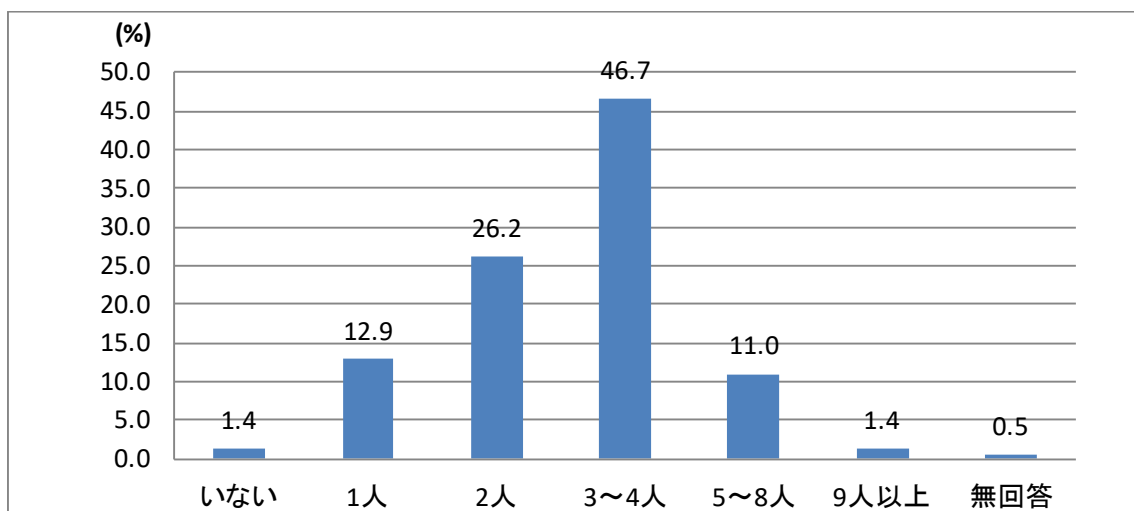


図 16 気楽に感じられる家族や親戚

気楽に感じられる家族や親戚についてたずねた。「3~4人」が46.7%と最も多く、次いで「2人」が26.2%であった。(図 16)

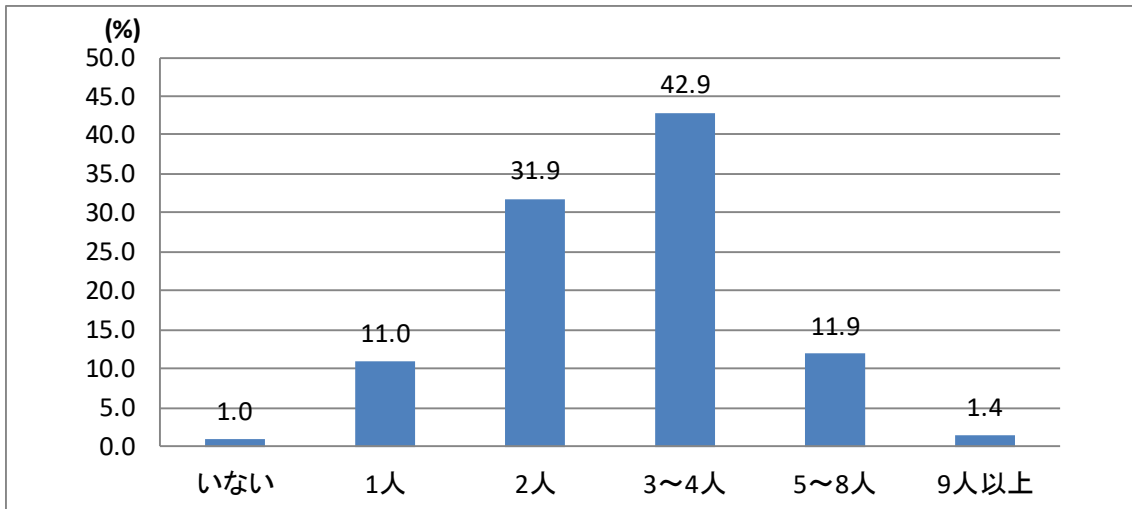


図 17 親しく感じられる家族や親戚

親しく感じられる家族や親戚についてたずねた。「3~4人」が42.9%と最も多く、次いで「2人」が31.9%であった。(図 17)

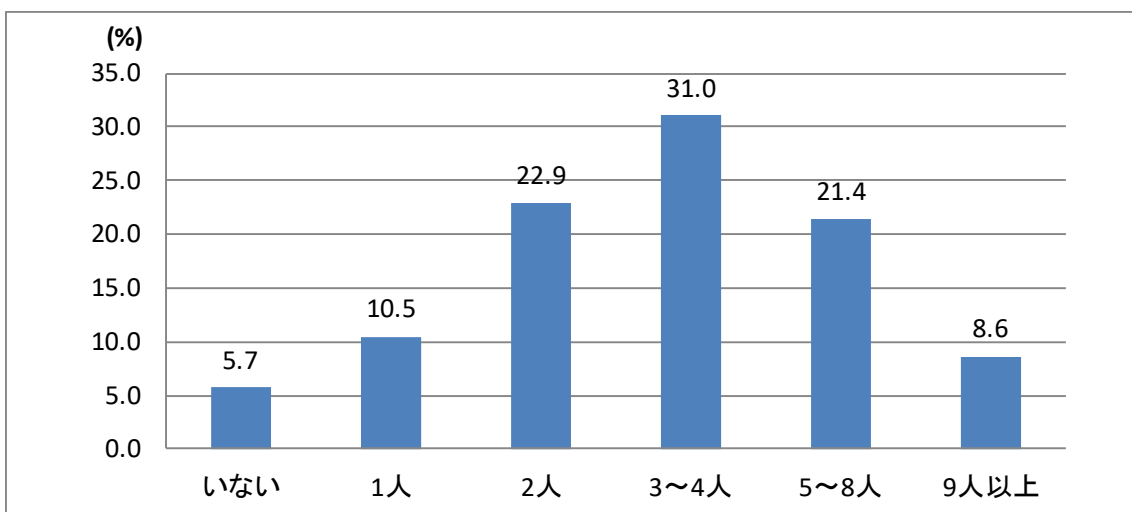


図 18 月に1回は会ったり話をしたりする友人

月に1回は会ったり話をしたりする友人についてたずねた。「3~4人」が31.0%と最も多く、次いで「2人」が22.9%、「5~8人」が21.4%であった。(図 18)

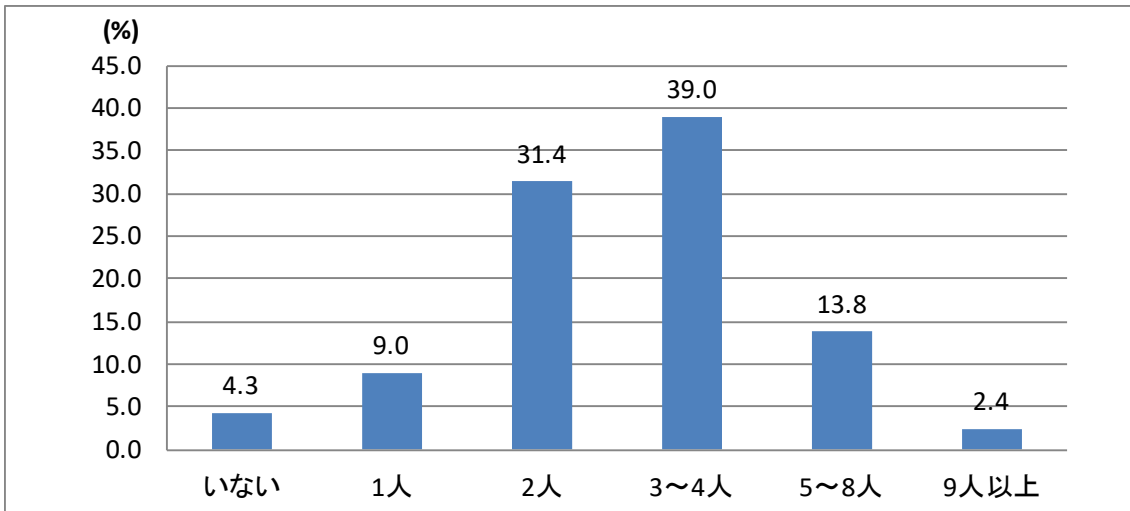


図 19 気楽に感じられる友人

気楽に感じられる友人についてたずねた。「3~4人」が39.0%と最も多く、次いで「2人」が31.4%であった。(図 19)

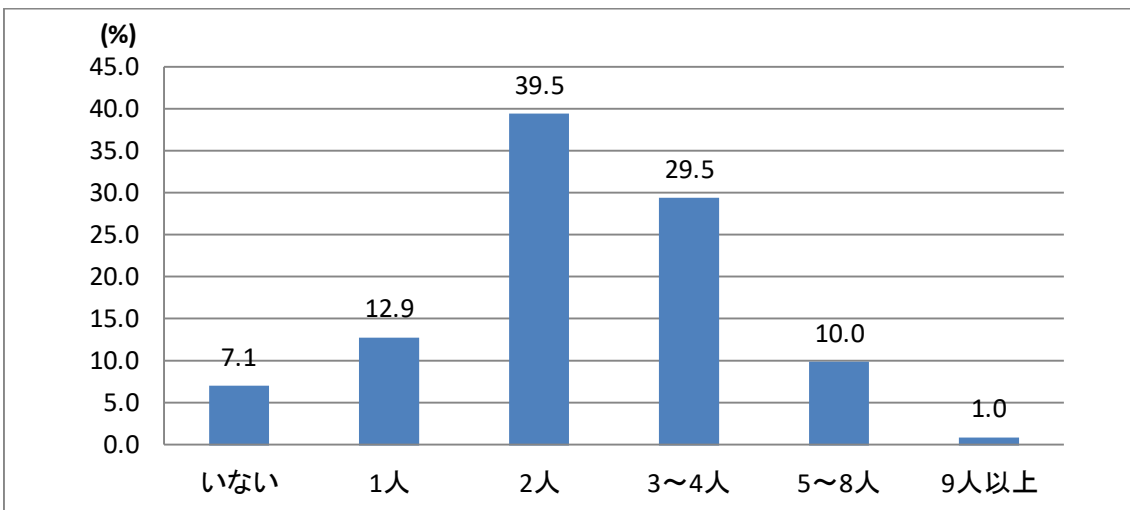


図 20 親しく感じられる友人

親しく感じられる友人についてたずねた。「2人」が39.5%と最も多く、次いで「3~4人」が29.5%であった。(図 20)

交流関係においては「いない」と「1人」をあわせると、いずれも10~20%いることが分かる。人的交流がなくなると地域で孤立する可能性があり、看過できない現状といえる。

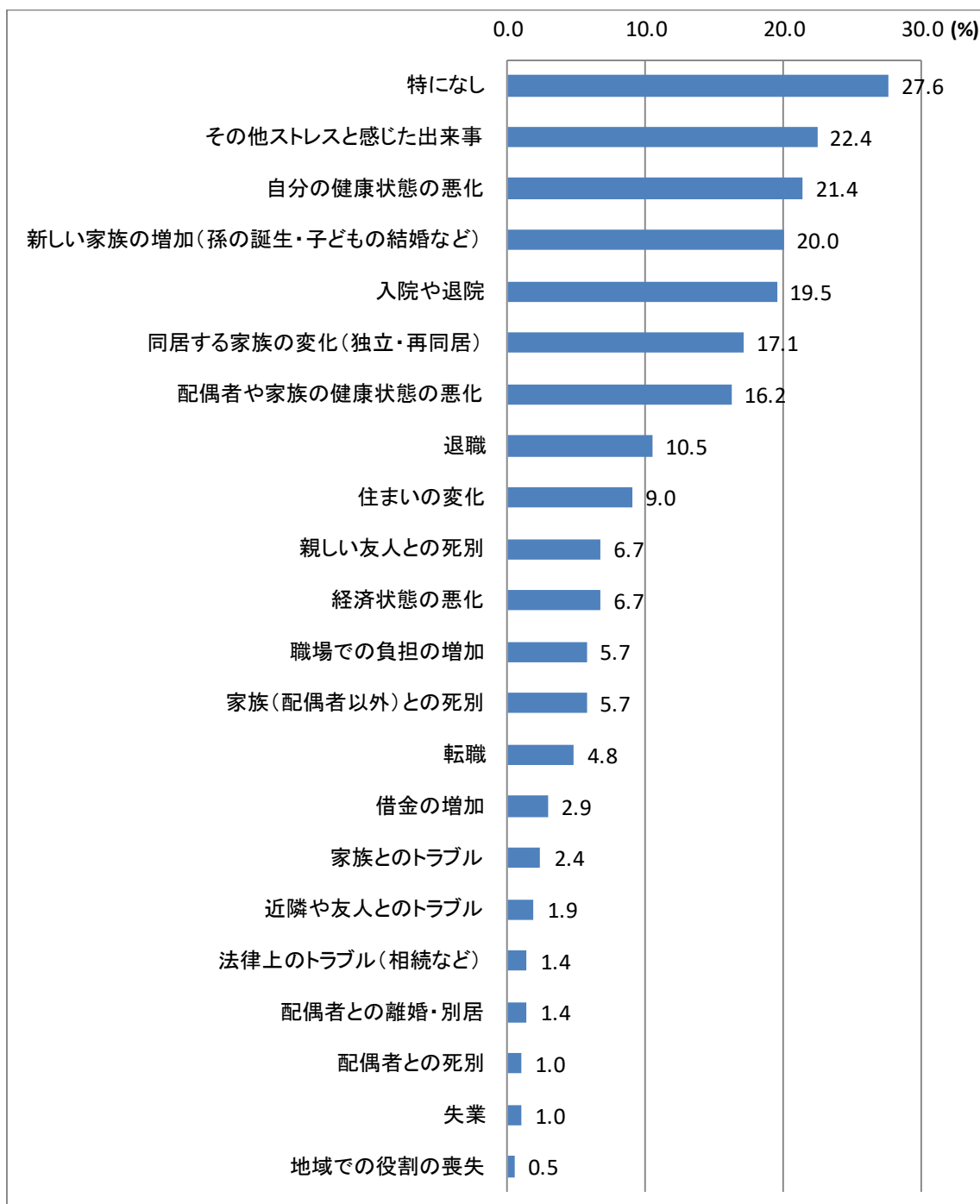


図 21 過去 1 年以内のライフイベント

過去 1 年以内のライフイベントについてたずねた。「特になし」が 27.6%と最も多く、次いで「その他ストレスと感じた出来事」が 22.4%、「自分の健康状態の悪化」が 21.4%、「新し

い家族の増加（孫の誕生・子どもの結婚など）」が 20.0%、「入院や退院」が 19.5%であった。（図 21）

「特になし」は最も多いが、全体から見ると約 25%である。逆に言えば、約 75%は何らかのライフイベントを経験したことになる。上位に来ている項目から、自分や家族の健康状態の悪化、家族構成の変化が主なライフイベントであることがうかがえる。かなりの数の回答者が、ファミリーライフステージの移行期にあると推察できる。

属性等に関する項目

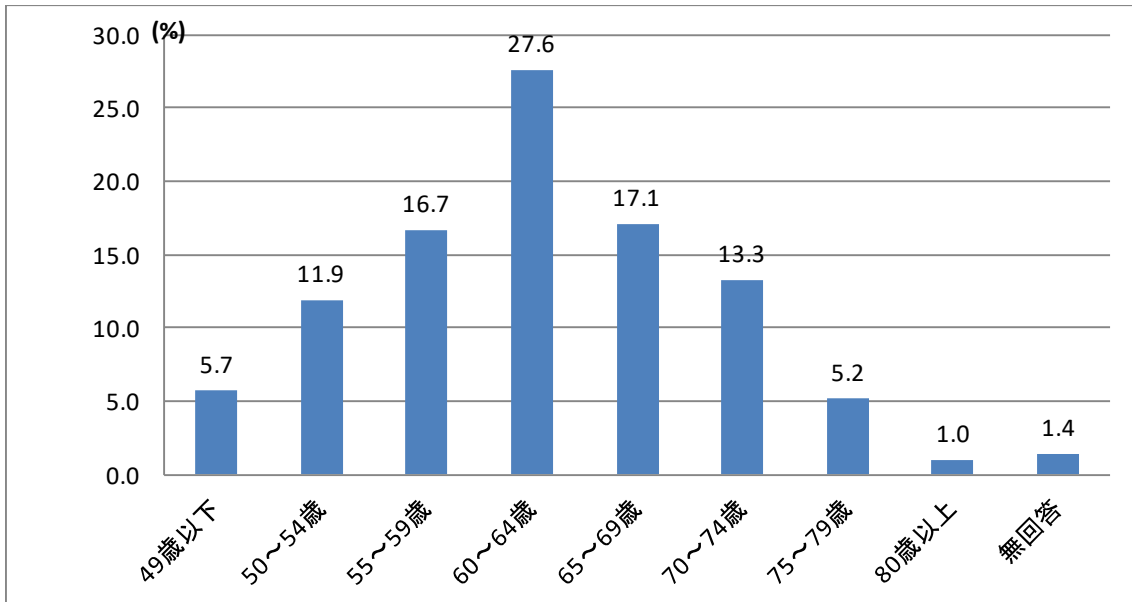


図 22 年齢

年齢についてたずねた。「60~64歳」が27.6%と最も多く、次いで「65~69歳」が17.1%、「55~59歳」が16.7%であった(図22)。60歳以上は64.2%である。

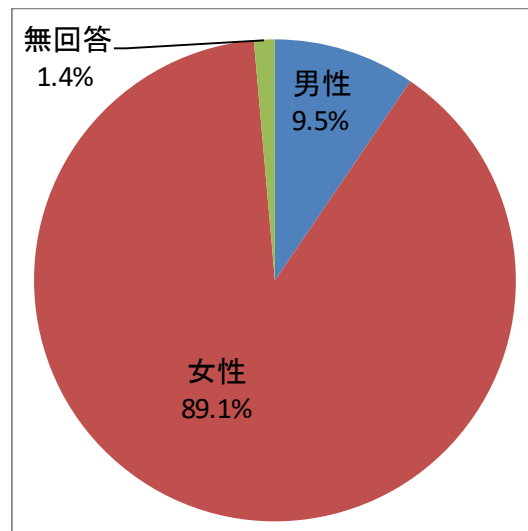


図 23 性別

性別についてたずねた。「女性」が89.1%、「男性」が9.5%であった。(図23)

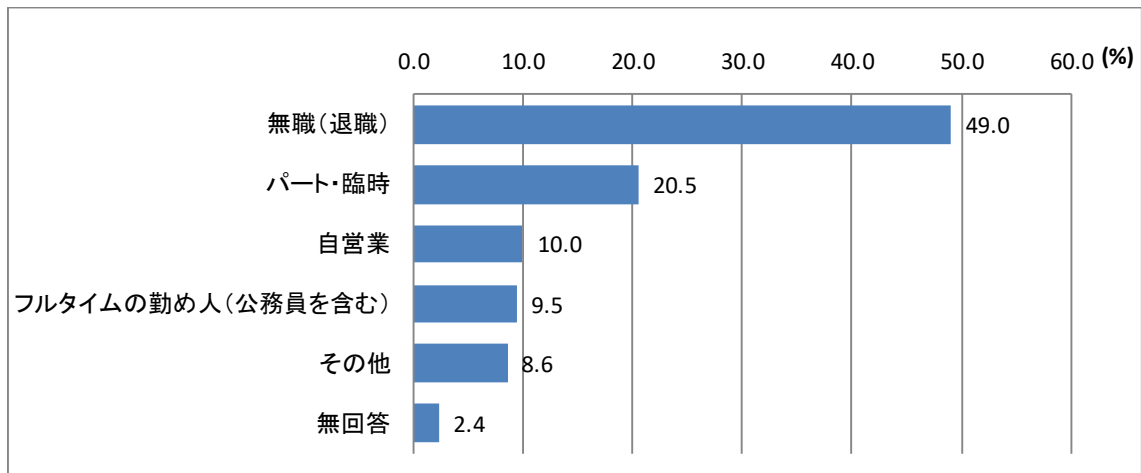


図 24 職業

職業についてたずねた。「無職(退職)」が49.0%と最も多く、次いで「パート・臨時」が20.5%であった。(図 24)

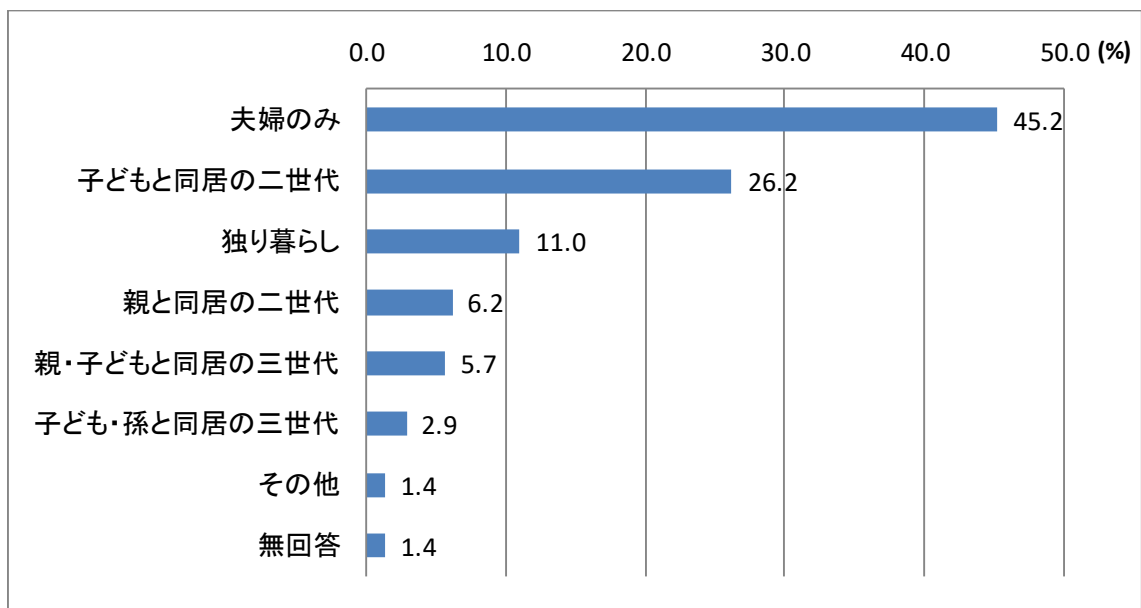


図 25 家族形態

家族形態についてたずねた。「夫婦のみ」が45.2%と最も多く、次いで「子どもと同居の二世帯」が26.2%、「独り暮らし」が11.0%であった。(図 25)

講座参加者の年齢から考えると当然の結果である。夫婦のみと答えた約半数は、ファミリーライフステージが最終のステージである。家族が三世家族の割合が10%以下であることから核家族化の進行がうかがえ、今後は独り暮らしの増加が予測される。

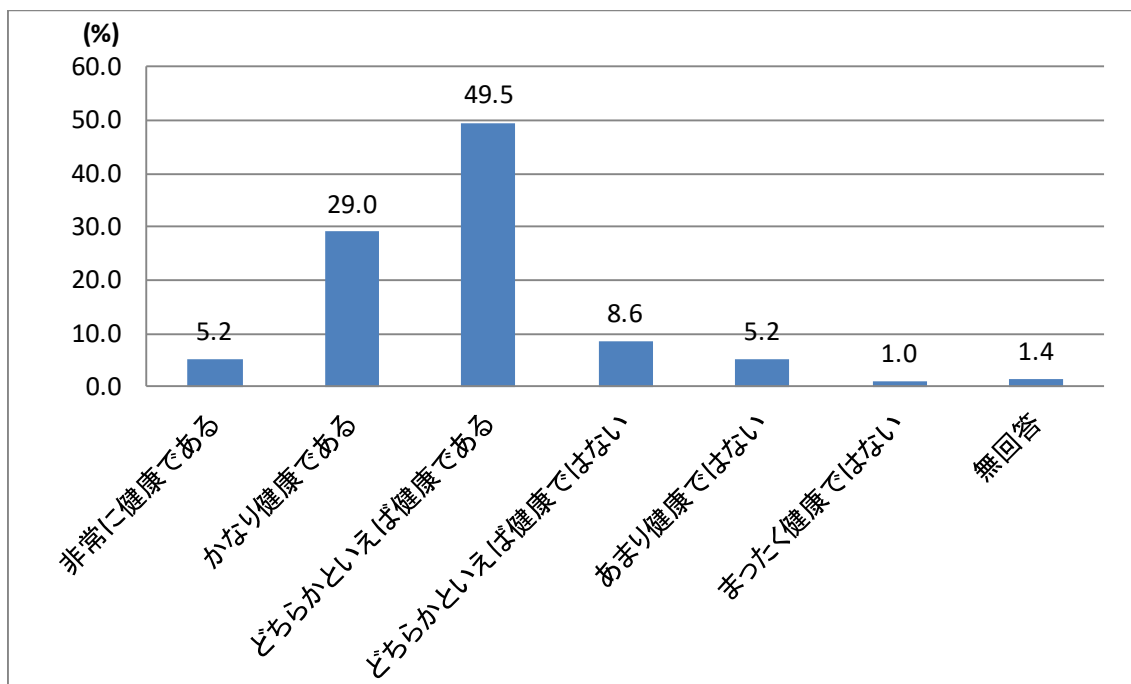


図 26 健康状態

健康状態についてたずねた。「どちらかといえば健康である」が49.5%と最も多く、次いで「かなり健康である」が29.0%、「どちらかといえば健康ではない」が8.6%であった。(図26)

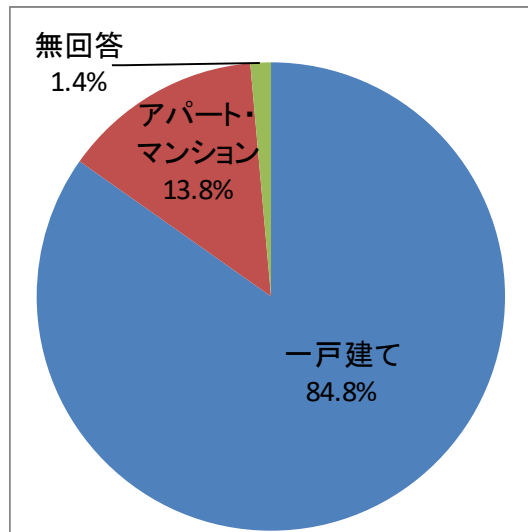


図 27 建物形式

建物形式についてたずねた。「一戸建て」が 84.8%、「アパート・マンション」が 13.8%であった（図 27）。

今回住宅の所有関係についてはたずねていないが、講座参加者の 64.2%が「60 歳以上」で、徳島県における高齢者主世帯の高い持ち家率（81.3%）と一戸建率（81.9%）を考えると（平成 25 年住宅・土地統計調査，徳島県のデータより），「一戸建て」で持ち家の比率が高いと推測できる。

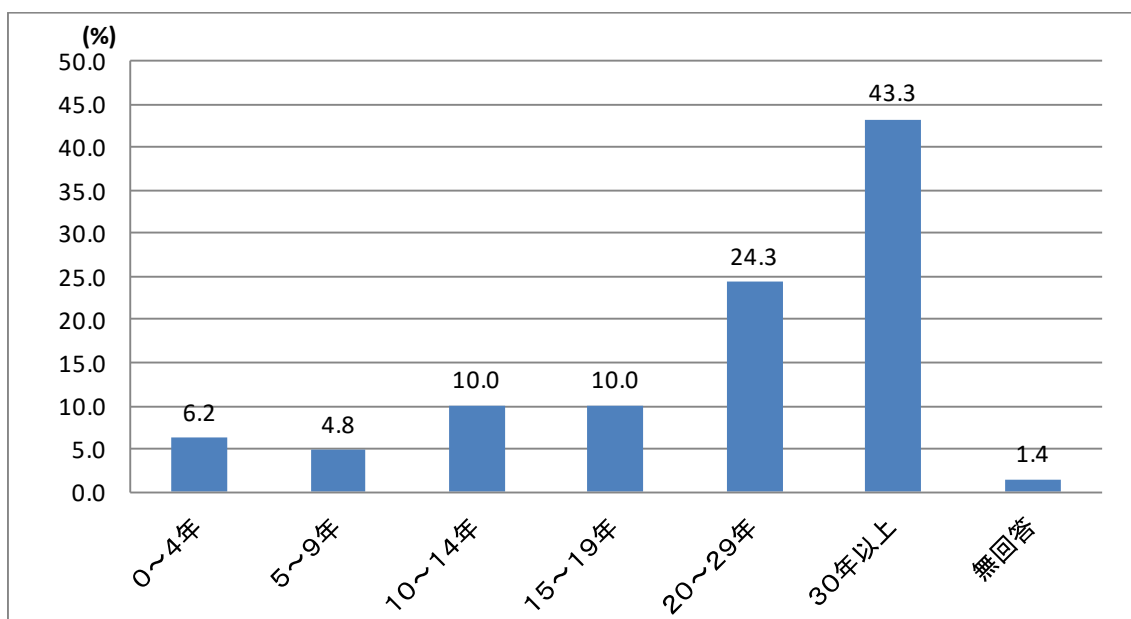


図 28 居住年数

居住年数についてたずねた。「30年以上」が43.3%と最も多く、次いで「20~29年」が24.3%であった（図 28）。

一般的に居住年数が長くなればなるほど、持ちものの種類や量は増えていくので、現在の住まいで「20年以上」生活している67.6%は、おそらくたくさんものをかかえて生活していると推察される。思い出のものや使わず場所を取るもの等々は定期的な見直しと処分が必要であるが、普段なかなか実行できていないのが現状である。今回講座参加者の多くが「ものが多い」「捨てられない」「片づけできない」としており、ものの整理や収納に悩まされている様子がうかがえた。

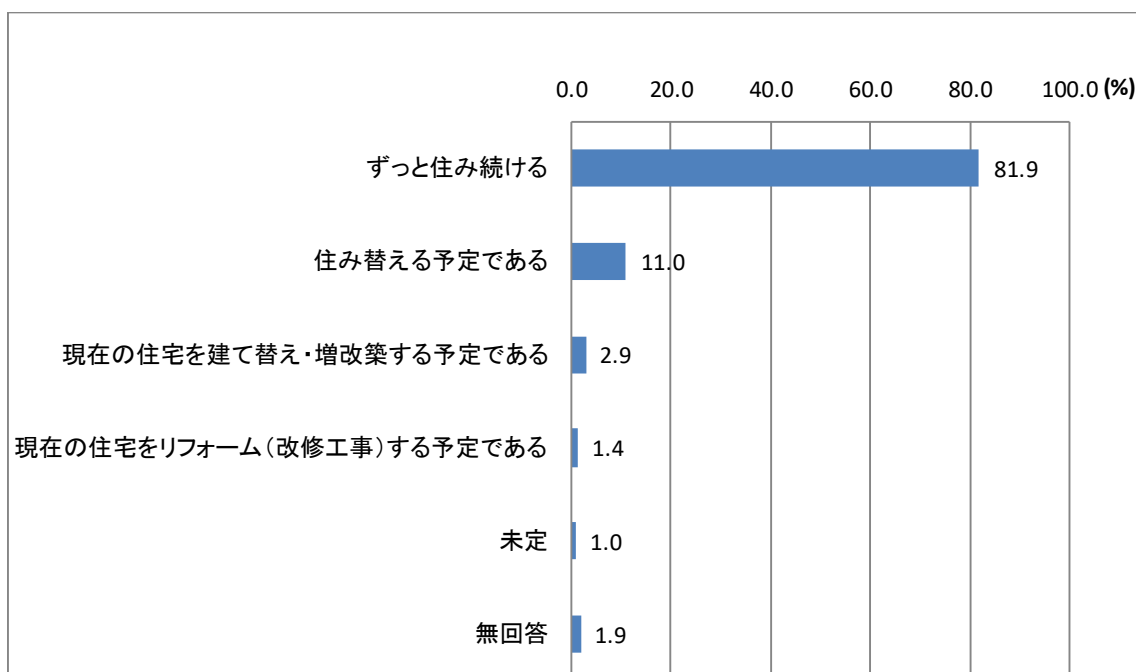


図 29 居住の予定

居住の予定についてたずねた。「ずっと住み続ける」が 81.9%と最も多く、次いで「住み替える予定である」が 11.0%であった（図 29）。

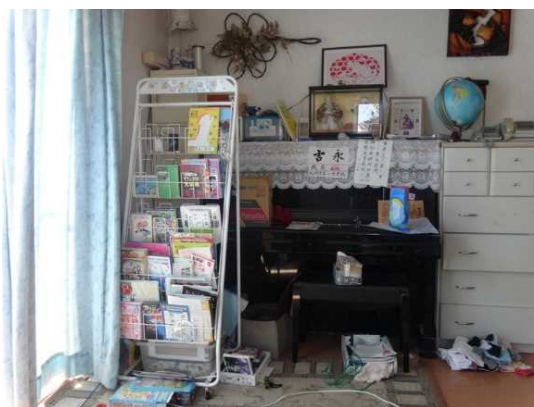
今回講座参加者の 64.2%が「60 歳以上」で、高齢になるにつれて、特に自宅が持ち家の場合、住宅内外における住み慣れや経済的理由で「住み替え」願望は減っていき、定住意識は高くなる。ただ、参加者の 43.3%が現住宅で「30 年以上」住んでいると答えており、住宅の老朽化も予想されるなか、「住宅の建て替え、増改築、リフォーム」を予定している人はわずか 4.3%であった。「住み続ける」ためには住まいの安全性を高めるべく、体が健康なうちにバリアフリー化や耐震化に向けた改修など、より積極的な対策が必要と考える。

IV ケーススタディ

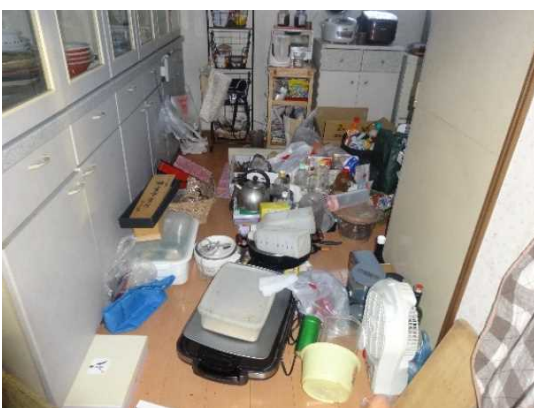
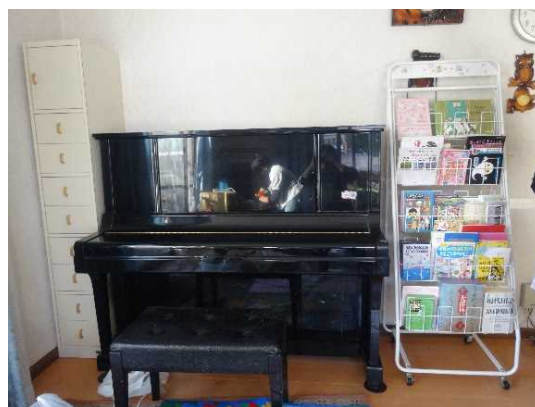
講座実施時に募った希望者を対象に，外部講師の指導により実際に自宅の収納改善を実施した。事後インタビューにより意識の変化を把握する。

ケースA:40代，自営業，4世代9人家族，一戸建て(築22年)

片付け前の写真



片付け後の写真



事後インタビュー:2018年11月1日

●お片づけ指導後の気持ちの変化

スッキリしたなあ。お片づけをやろうと思った。

すごくやりたいけど・・・引き出しの中から片づけていったらいいのかな？全体をどうしたらいいのかが分からなかった。結局、引き出しの中のものを必要・不用で分けても、必要なものの場所を移しただけ。例えば、子どもの賞状、まとめたけどどこに置いたらいいのかわからない。

●家族の反応はどうでしたか？

子どもたちが自分の部屋を片づけだした。

●家族の反応の言葉

「リビングが広がった！」

●気持ちの変化

片づけよう！という気持ちが続いている。

●もうすぐ、実家の母が歳暮を持ってくるので、片づいてきて気持ちがいぶ楽になっている。今までは、毎年、母は来てはため息をついていた。

考察

自分で片づけを実施して感じた疑問は、リビングをどういう空間にするか、大きな枠組みが決まっていないから、賞状の置き場所が定まらなかった、ということであろう。Aさんは1回目の指導で、お片づけをしようという気持ちが大いに高まったが、1度で学習できる技能は限られていたことがうかがえる。結局、Aさんは1回で片づけができる範囲は大きくないこと、自分一人で行う自信がないことから、その後私費で指導を依頼して片づけを継続した。それだけ片づけたい気持ちが強くなったということであろう。事後インタビューの内容から、本人の気持ちの変化だけでなく子どもたちの行動にも影響したことが分かる。実家の母との関係も好転しそうである。つまり、ものと空間の管理を見直すことが家族関係を改善し、生活を快適にする有効な一つの手だてになると考えられる。

ケースB: 50代, 夫会社員, 夫婦と娘, 一戸建て(築40年)

片付け前の写真



片付け後の写真



事後インタビュー: 2018年12月5日

●気持ちの変化

捨てやすくなった。「もったいない」「いつか使える」そういう時は来ないとわかった。

●片づけ以外のことに対する気持ち

片づいたら気分的に違う。あれもこれもしてみようかなという気になる。

家に愛着がわいてきた。自分の家が好きになる。

●自分のものの置き場所—ここを片づけたら置けるかな、とか考えるようになった。今まで
は、どうでもいい、どうせ地震がくる・・・と思っていた。

●家族の反応，変化

「ずっとこれを継続せないかな」と言うが、手伝ってくれない。お菓子の袋「捨ててね」に
対し「家に居るのにそれくらいせーよ」と言う。

しかし、つまようじは絶えず自分の手元に置いておく人（夫）が、自分から（置いてある場
所に）取りに行った。以前はテーブルの上に置いたままだった。「上の部屋を片づけないかな
な」という。言うだけ。娘は変化なし。

●モチベーション

もうすぐ息子が帰ってくる。びっくりさせてやろうと思って、お片づけのことは言っていな
い。

考察

事後インタビューの内容から、片づけによって気持ちがスッキリし、生活全体に前向きに
なると推察される。夫とのやりとりからは、家のことは専業主婦である妻がすればいいとい
う考えがうかがえ、家にもものがあふれ片づかなくなるのは、昔ながらの性別分業による女性の
家事負担の大きさから手が回らなくなることが一因ではと考えられる。

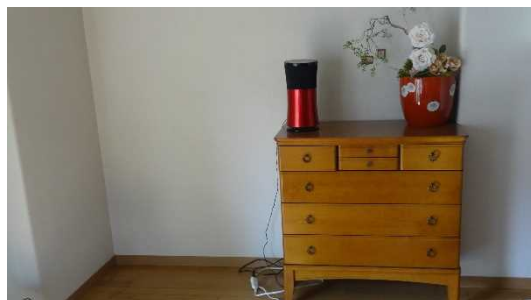
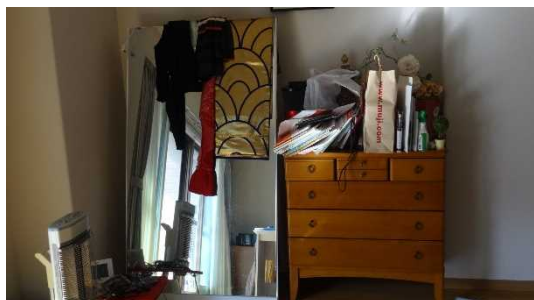
離家した子どもの帰省が片づけの動機づけとなっていることは興味深い。事前のインタ
ビューで、片づけられなくなった原因に息子が家を離れたことを挙げていたが、ファミリーラ
イフステージは移行したのに、気持ちがそれに付いていかず、次の段階に移行できなかったと
考えられる。

ケース C: 50代, 夫会社員, 夫婦と娘, マンション(20年居住)

片付け前の写真



片付け後の写真



事後インタビュー:2018年12月18日

●確認した点

前回片付けした2か所の状態（キープされているかどうか）、食卓の使用状況、装飾ダンス周り、ダイニングテーブルの片づけ状態は概ねキープされ、本来の機能を果たしていた。

●前回の課題に対する実践状況

台所の作業棚と食器棚の中に無操作で分散収納しているたくさんの書類を見事に分類・整理し整理ファイルボックスを用いて種類別に整頓していた。事前アドバイスに従って一か所にまとめた各ファイルボックスにはラベリングをし、内容物がすぐ分かるようにしていた。

前回、限られた場所ではあるが片づけ試演後、機能的・視覚的効果を実感し、片づけに意欲が沸き、リバウンドしないよう気を付けている様子が見えかけた。

●2回目の片づけ場所：納戸（衣装部屋）

納戸として使われている衣装部屋のクローゼットを中心に部屋全体の衣装を種類別にわけ、整理し、かけ方の見直しなどを行った。視覚的、機能的効果は画然で、Cさんは片付けの効果を実感したようである。（1回目と2回目の納戸周り写真比較）。

考察

1度の指導で多くを学び、大変意欲的に片づけに取り組んだことが分かる。Cさんが整理・収納アドバイザーに次の訪問を頼んでいた（私費）ことから、モニター訪問は2回で終了したが片づけ意欲が高められ、継続したい気持ちが強くなったと考えられる。

V 中高年向けの消費者教育プログラムの開発に向けて

課題と提案

住まいのものと空間管理（整理・収納）の側面から

住まいの特徴として、「一戸建」が84.8%、居住年数「20年以上」が67.6%、現住宅での「定住志向」が81.9%といずれも高い割合であったことが指摘できる。ものや空間管理の現状は、居住年数が長いほど持ちものの数も増えていくのが一般的な傾向であり、「ものが多い」が「捨てられない」「片づけできない」ことで「整理・収納に困っている」人が多く見受けられた。また、テーブルや家具の上、居間の床などがもので占拠されていたり、空き部屋がそのまま死蔵品の物置になっていたり、空間の管理・活用が十分ではない状況も見られた。

もので豊かさを図る時代をへて、ものにあふれた今の住生活環境は決して豊かとはいえない状況といえる。家の中で使われず、ただの置物になっている大量のものを見直し、リユーズ・リサイクルに回すなど、循環型社会に向け、ものをめぐる意識の転換が必要と考える。

「必要なものが使いやすい場所にある生活」を目指して、ものと空間の見直しと管理能力の向上が必要で、ものと空間の適切な管理は安全・便利・快適な日常生活の保障につながる。そこで、ものや空間の管理をめぐる成人学習を提案する。具体的には以下の通りである。

- ・各部屋・スペースにおけるものを見直し：もの見方、ものの要・不要の見分け方、ものの置き場所（配置・収納）のルール

- ・合理的な片づけの方法に関する学習：ものの仕分け方、仕舞い方など整理・収納の仕方と工夫、ものの生かし方・捨て方・空間の活用・管理方法の学習：自分が住む家の各空間の使用目的と使い方の確認と見直し、自分の暮らし方の点検、空間の収納力確認と八分目収納の工夫と実践

金銭管理と消費生活の側面から

金銭管理や商品購入・契約といった消費生活に直接関わる内容について、中高年の課題が示された点は次のとおりである。金銭管理では、自らが使える資源がどれだけなのかを認識し、目的を持って有効活用しようという意識を持つという点で課題があることがうかがえた。また、商品購入・契約では、店側の販売戦略にのせられて不要な買物をしてしまうことや、契約の前に内容をよく確認するという点に課題がみられた。また、複雑化するキャッシュレス決済の仕組みや、巧妙な悪質商法の知識など、変化する消費生活への対応という点でも課題があることが浮かび上がった。

金銭という生活資源の有効活用、購入・契約前の慎重な情報の読み取りと内容検討、また消費生活の新たな変化に対する知識をテーマとし、中高年の興味をひきつけられるような講座を開催することが重要だと考えられる。

交流関係とライフイベントの側面から

過去一年間に約75%が何らかのライフイベントを経験しており、その内容からは健康状態の悪化に関することと家族構成の変化に関するが多かった。つまり、これらのライフイベントは、中高年期に多く起きるライフイベントであるとも考えられる。したがって、これらに対し準備しておくことが重要になる。しかし現状は、前述のものの管理の状態を合わせて考えると、ファミリーライフステージの移行に対応しきれず、なんとなくダラダラと成人子が離家するまでの暮らしぶりを続けていることがうかがえる。

交流関係を見ると、10～20%の人が地域で孤立する可能性があり、夫婦のみの家族が約半数と最多であったことから、今後、独り暮らしは増えていくと予想できる。また、加齢による健康状態の悪化は、人生において避けられないライフイベントである。独り暮らしになったり健康状態が悪化したりする前に、ものの管理や片づけ、お金の管理の目途をつけておかなければ、いざという時に対応が困難になるであろうことは想像に難くない。

健康の維持に努めることを前提として、人生の終盤に向かって生活の設計図を描いてみるこ
とが取り組むべき課題の一つといえよう。終活は人生の最期への準備というふうにとらえられ
る傾向にあるが、「人生の最後のステージをどのように生きたいかを考える」という重要な問
いかけでもある。中高年の消費者教育の中に、終活と関連させて人生設計を取り入れることを
提案したい。なぜなら、「自分や家族にとって快適な生活とは具体的にどのようなことなの
か」を考える中に、ものや空間の管理、金銭管理や消費行動、家族（夫婦）関係や交友関係が
含まれるからである。

中高年向け消費者教育プログラムの提案—終活と関連させて

以上の3側面からの提案を総合して、以下の教育プログラムが一案として考えられる。

1回目——お金の管理と賢い買い物：お金ともものに向き合う

2回目——ものの管理と快適な空間：ものと空間に向き合う

3回目——時間の管理と快い人間関係：時間と他者との交流・生活に向き合う

消費生活は生活全体と複雑に関連し合うことから、消費者教育を家族・家庭生活教育に含め
るとの観点からこのようなプログラムを考案した。1回ずつ単独で行っても良いが、3回通し
て行えば終活を兼ねた人生晩年の生活設計のプログラムにもなるであろう。生活の要素として
のお金・もの・空間・時間・人間関係の相互関係が分かれば、生活全体が改善され、快適な消
費生活のみならず、自分の人生を積極的に生きる活力にもつながることが期待できる。

**** 謝辞 ****

本調査研究は徳島県立総合大学校からの助成金により行うことができました。このような機
会をいただきましたこと、大変ありがたく心よりお礼を申し上げます。

參考資料

「50代からのお片づけ」 参加者アンケート

本日はご参加くださり、ありがとうございました。以下のアンケートにお答えください。

問1. この講座をどのように知りましたか。

1. 講座のポスター（見た場所： ） 3. 大学のホームページ	2. 講座のチラシ（受け取った場所： ） 4. 友人から
---	--

問2. 本日の講座内容について、どのように思われましたか。a) ～g) それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	とてもあてはまる
a) 楽しかった	1	2	3	4	5
b) 分かりやすかった	1	2	3	4	5
c) 勉強になった	1	2	3	4	5
d) 片づける意欲がわいた	1	2	3	4	5
e) もっと学びたいと思った	1	2	3	4	5

問3. ご自宅におけるものの整理・収納のルールやお悩みがあればご自由に書いてください。

ルール：

お悩み：

☆内藤先生の個人指導で自宅の片づけに取り組むモニターの方を2名募集しています。

- ・10～11月中に内藤先生の訪問を2回（1.5～2時間/回）受け、片づけに取り組める方。
- ・片づけ前・後の部屋の写真を、報告書に載せてもよい方。（氏名など個人情報は載せません）
- ・片づけをした気持ちの変化についてのインタビューに応じられる方。
- ・費用は無料です。謝礼もございません。

モニターに応募される方は、下記にご連絡先等を記入してください。

氏名：	住所：
連絡先（電話番号またはeメールアドレス）：	

応募者多数の場合は抽選とします。モニターに選ばれた方には、9月中にご連絡します。

ご記入いただきました個人情報は連絡用に利用し、それ以外の目的には一切使用いたしません。

生活・住まい・消費についてのアンケート

このアンケートは今後の消費者教育の計画に活かすために、生活・住まい・消費についての実態をおたずねするものです。無記名ですので率直にお答えください。

問1. 講座で判明したあなたのお片づけタイプは何でしたか。○をつけてください。

1. Aタイプ 2. Bタイプ 3. Cタイプ 4. Dタイプ

問2. 住まいにおけるものの整理・収納についてお聞きします。a)～g) それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	全く 当てはま らない	あまり 当てはま らない	やや 当ては まる	とても 当ては まる
a) 普段使うものの置き場所を決めている	1	2	3	4
b) 使ったものは必ず元の場所に戻す	1	2	3	4
c) ものの置き場所が分からず、何かを探すことがある	1	2	3	4
d) どこに置いたらよいか分からないものがある	1	2	3	4
e) 押入れや納戸に入りきらないものがある	1	2	3	4
f) 机やテーブルの上にもものを出しっぱなしにしている	1	2	3	4
g) 床の上に直接置いているものがある	1	2	3	4

問3. 住まいにおける「使わないもの」の整理・収納についてお聞きします。a)～g) それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	全く 当てはま らない	あまり 当てはま らない	やや 当ては まる	とても 当ては まる
a) 使わないのに場所を取る家具や家電がある	1	2	3	4
b) 使わないが「いつか使える」と思って置いているものがある	1	2	3	4
c) 使わないが愛着があって手放せないものがある	1	2	3	4
d) いただいたもの（引き出物など）だから捨てられないものがある	1	2	3	4
e) 使わないものの一時置き場がある	1	2	3	4
f) 使わないものは定期的に処分している	1	2	3	4
g) 捨て方が分からないものがある	1	2	3	4

問4. 収納に困っているものはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 衣類 2. 寝具類 3. 食品類 4. 食器類
5. 調理道具類 6. 本・雑誌類 7. 書類・文房具類 8. 日用品（ティッシュ・洗剤など）
9. 靴類 10. スポーツ用品類 11. 家電製品類 12. 思い出・記念品類
13. 引き出物類 14. その他（ ） 15. 特になし

問5. お金の管理についてお聞きします。a)~f)それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	全く 当てはま らない	あまり 当てはま らない	やや 当ては まる	とても 当ては まる
a) 自分が1年間に使える金額が分かっている	1	2	3	4
b) 何に何円くらい使うか、目安がある	1	2	3	4
c) お金を貯めておこうと意識している	1	2	3	4
d) 老後の生活資金は、あまり心配していない	1	2	3	4
e) 自分のお金の使い方には、特に問題がないと思う	1	2	3	4
f) 今後のお金の使い道の計画を立てている	1	2	3	4

問6. あなたの、ふだんの買い物についてお聞きします。a)~f)それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	あまり しない	たまに する	だいたい する	いつも する
a) セールやお買い得品をよく利用する	1	2	3	4
b) TVショッピングをよく利用する	1	2	3	4
c) 便利そうなものは買ってみる	1	2	3	4
d) 贈り物・プレゼントをよくする	1	2	3	4
e) 買う物を即断即決する	1	2	3	4
f) 期間限定品をよく買う	1	2	3	4

問7. 消費者トラブルの経験についてお聞きします。a)~e)それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	1度も ない	1度だけ あった	2,3回 あった	何度も あった
a) 思っていたよりかなり高い金額を請求された	1	2	3	4
b) 事前の説明と実際のサービスの内容がかなり違っていた	1	2	3	4
c) 強引なセールスによって不本意ながら契約・購入した	1	2	3	4
d) 解約しようとしたら高額な違約金を請求された	1	2	3	4
e) 頼んでもいない商品が届き、受け取ってしまった	1	2	3	4

問8. 次の事柄について知っていますか。a)~d)それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	全く知らない (初めて聞いた)	あまり知らない (聞いたことがある)	知って いる	よく知っている (説明できる)
a) クーリング・オフ制度	1	2	3	4
b) 消費生活センター	1	2	3	4
c) クレジットカード払いの仕組み	1	2	3	4

d) マルチ商法	1	2	3	4
----------	---	---	---	---

問 9. ご家族や親戚についてお聞きします。あなたには以下のような家族や親戚が何人いますか。

a. 少なくとも月に 1 回、会ったり話をしたりする家族や親戚。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

b. あなたが個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親戚。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

c. あなたが助けを求めることができるくらい親しく感じられる家族や親戚。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

問 10. あなたには以下のような友人が何人いますか。近くに住んでいる人を含む、あなたの友人全体について考えてください。

a. 少なくとも月に 1 回、会ったり話をしたりする友人。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

b. あなたが個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

c. あなたが助けを求めることができるくらい親しく感じられる友人。(1 つに○)

1. いない	2. 1 人	3. 2 人	4. 3~4 人	5. 5~8 人	6. 9 人以上
--------	--------	--------	----------	----------	----------

問 11. 以下のライフイベントのうち、過去 1 年以内に自分の身のまわりに起きた出来事があれば、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 住まいの変化	2. 新しい家族の増加 (孫の誕生・子どもの結婚など)
3. 同居する家族の変化 (独立・再同居)	4. 自分の健康状態の悪化
5. 入院や退院	6. 配偶者や家族の健康状態の悪化
7. 配偶者との離婚・別居	8. 配偶者との死別
9. 家族 (配偶者以外) との死別	10. 親しい友人との死別
11. 経済状態の悪化	12. 借金の増加
13. 転職	14. 失業
15. 退職	16. 職場での負担の増加
17. 地域での役割の喪失	18. 家族とのトラブル
19. 近隣や友人とのトラブル	20. 法律上のトラブル (相続など)
21. その他ストレスと感じた出来事	22. 特になし

最後にあなた自身についておたずねします

F 1. あなたの年齢（1つに○）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 49歳以下 | 2. 50～54歳 | 3. 55～59歳 | 4. 60～64歳 |
| 5. 65～69歳 | 6. 70～74歳 | 7. 75～79歳 | 8. 80歳以上 |

F 2. あなたの性別

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 3. 現在の職業（再雇用を含む）（1つに○）

- | | | |
|-----------|---------|----------------------|
| 1. 無職（退職） | 2. 自営業 | 3. フルタイムの勤め人（公務員を含む） |
| 4. パート・臨時 | 5. その他（ | ） |

F 4. 家族形態（1つに○）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 独り暮らし | 2. 夫婦のみ |
| 3. 子どもと同居の二世帯 | 4. 親と同居の二世帯 |
| 5. 子ども・孫と同居の三世帯 | 6. 親・子どもと同居の三世帯 |
| 7. 四世代同居 | |

F 5. 現在のあなたの健康状態について、どのように思っていますか。（1つに○）

- | | | |
|-------------------|--------------|------------------|
| 1. 非常に健康である | 2. かなり健康である | 3. どちらかといえば健康である |
| 4. どちらかといえば健康ではない | 5. あまり健康ではない | 6. まったく健康ではない |

F 6. あなたの現在のお住まいについてお聞きします。該当するもの1つに○をつけてください。

a. 建物形式（1つに○）

- | | |
|---------|---------------|
| 1. 一戸建て | 2. アパート・マンション |
| 3. その他（ | ） |

b. 居住年数（1つに○）

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 0～4年 | 2. 5～9年 | 3. 10～14年 |
| 4. 15～19年 | 5. 20～29年 | 6. 30年以上 |

c. 居住の予定（1つに○）

- | |
|---------------------------------------|
| 1. ずっと住み続ける |
| 2. 住み替える予定である |
| 3. 現在の住宅を建て替え・増改築する予定である |
| 4. 現在の住宅をリフォーム(改修工事)する予定である(工事予定箇所:) |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。